

第 2 1 回

近畿地区中学校修学旅行研究大会

研 究 要 録

平成18年11月17日(金)

午後1時 ~ 4時

京都市「ルビノ京都堀川」

- 主 催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会
- 後 援 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会
大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会
奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会
- 協 賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会

目 次

1	大会要項	-----	1
2	挨拶		
	近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 (京都府亀岡市立詳徳中学校長)	森永 正幸	----- 2
	財団法人 全国修学旅行研究協会理事長	中西 朗	----- 3
3	研究発表		
	《発表 I》		----- 4
	滋賀県高島市立高島中学校	村田 秀俊教諭	
	沖縄への修学旅行		
	「平和学習と異文化体験」		
	～ 将来の自分とふるさとの未来を考えるために ～		
	《発表 II》		----- 23
	京都府八幡市立男山東中学校	戸田 孝一教諭	
		山口 敏彦教諭	
		山名 博市教諭	
	「北海道修学旅行から」		
	— 教育課程の見直しに伴い、総合学習との整合性を重視する —		
4	研究協議	-----	47
5	指導講評	-----	48
	京都府教育庁 指導部学校教育課	本島 知樹指導主事	
6	近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ (参考資料)	-----	49

大 会 要 項

- 1 主 催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会
- 2 後 援 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会
兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会
- 3 協 賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会
- 4 研究テーマ 「修学旅行における『学び』の創造」
- 5 日 時 平成18年11月17日(金)
受付 午後12時30分 開会 午後1時 閉会 午後4時
- 6 会 場 京都市 「ルビノ京都堀川」 2F 「みやこ」
京都市上京区東堀川通下長者町下ル Tel 075-432-6161
- 7 日 程

13:00	会長挨拶 理事長挨拶 来賓祝辞	(1) 開会挨拶 ・ 近畿地区公立中学校修学旅行委員会会長 (京都府亀岡市立詳徳中学校長) 森永 正幸 ・ 財団法人 全国修学旅行研究協会理事長 中西 朗
13:10	研究発表 I 滋賀県 高島中学校 II 京都府 男山東中学校	(2) 来賓祝辞 京都府教育庁 指導部学校教育課 森 榮一課長 (3) 研究発表 《発表 I》 滋賀県高島市立高島中学校 村田 秀俊教諭 沖縄への修学旅行「平和学習と異文化体験」 ～将来の自分とふるさとの未来を考えるために～ 《発表 II》 京都府八幡市立男山東中学校 戸田 孝一教諭 山口 敏彦教諭 山名 博市教諭
14:30	休 憩	「北海道修学旅行から」 —教育課程の見直しに伴い、総合学習との整合性を重視する—
14:40	研究協議	(4) 研究協議
15:30	指導講評	司会者 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 (奈良県生駒市立緑ヶ丘中学校長) 副会長 酒見 宗良
15:50	感謝状贈呈 副会長閉会挨拶	(5) 指導講評 京都府教育庁 指導部学校教育課 本島 知樹指導主事
16:00		(6) 閉会挨拶 近畿地区公立中学校修学旅行委員会副会長 (大阪府大阪狭山市立南中学校長) 後藤 正憲



近畿地区中学校修学旅行研究大会の開催にあたって

近畿地区公立中学校修学旅行委員会
会 長 森 永 正 幸
(亀岡市立詳徳中学校長)

美しい自然と豊かな史跡・文化財に恵まれた“日本人の心のふるさと”京都に、各近畿府県より多くの先生方をお迎えし、また、近畿の各府県の教育委員会のご後援をいただき、第21回近畿地区中学校修学旅行研究大会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

さて、全国的に、少子化や核家族化が進み、人間関係の希薄化や日常生活での体験不足、子どもたちの倫理観や社会性の欠如、規範意識の低下などさまざまな問題が憂慮されています。

このような社会情勢の中、人との出会いや自然や地域との関わりを通じた子どもたちの「豊かな心の育成」が求められています。

本研究大会は、大きく変化する社会の中で学習指導要領のねらいの一つである「自ら学び、自ら考える力」の育成と、修学旅行の三原則―安全性の確保・教育性の高揚・経済性の適正化―を目指して修学旅行のあり方を追求してきました。

特に修学旅行は平素と異なる生活環境の中にあって、教師と生徒が寝食をともにし、教師と生徒及び生徒相互が人間的な触れ合いをすることによって、人間としての生き方についての自覚を深める機会として重要視されています。

また、修学旅行はかつてのような見学・知識習得という一方的な学習の場ではなく、現在では触れ合い・共感・共生等を重視した双方向を持った学習の場へと大きく方向を変えてきています。

そのことを踏まえながら修学旅行での学びに視点をあて、新しい教育・変化する教育に対応しつつ、学びのある修学旅行がいかに人間の成長に関わっていくかを考察し、学びのある修学旅行の創造を探求しています。

これを受けて、昨年度の和歌山大会から「修学旅行における『学び』の創造」を研究テーマに掲げ、その成果を踏まえ、本年度も引き続き研究協議を深めていきます。

今回は、滋賀県高島市立高島中学校と京都府八幡市立男山東中学校の2校に実践発表をしていただくことになっています。よろしく願いいたします。

終わりにになりましたが、本研究大会の開催にあたり、ご指導、ご支援を賜りました多くの方々に厚くお礼申し上げますと共に、今後とも当委員会の活動に、ご理解とご協力を頂きますようお願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



修学旅行研究発表会の開催にあたって

財団法人 全国修学旅行研究協会
理事長 中西 朗

各方面のご支援を受け、ここに、第21回近畿地区公立中学校修学旅行研究発表会が開催されますことは、誠に意義深いものがあります。この開催にあたり、近畿地区公立中学校修学旅行委員会のご尽力はもとより、各県の教育委員会・中学校校長会、特に開催地の京都府教育委員会・中学校校長会の格段のご支援に心から御礼申し上げます。

現在、新しい教育課程に向けての論議が進行していますが、今後とも修学旅行に求められるものは、「いろいろな土地を訪れての体験活動」でしょう。その体験活動は、作業体験のみならず、その地ならではの五感を通しての学びの体験です。見ること聞くことを含めて、多くの友と共有する体験から得られる心の感動が与えられます。

私は今年、器との触れ合いを体験しました。日常何の気なしに使っている茶碗や汁椀にこだわり、漆器は輪島、陶器は備前を訪れました。

漆は6,800年前頃から利用され、日本最古の漆塗り製品が能登半島から出土しています。その後脈々と受け継がれてきた輪島塗の伝統は、すばらしい製品を世に出しています。漆器が **japanware** といわれるほどに、日本文化として花咲いています。輪島を訪れ、漆のもつ不思議さ、木地・塗り・加飾の気の遠くなるような工程を経て作り出され製品への輪島塗に携わる人々の想いが手にした器から伝わってきました。輪島市内の全小中学校と市民病院では、給食に輪島塗の箸と椀が使われているそうです。

赤穂線の伊部の町をさまよいました。窯元が軒を連ねています。備前焼は古代窯でも特に古い歴史を持ちます。釉薬は使わず、炎と土との出会いを求めた窯変に生命をかけます。漆器に対して陶器は **chinaware** といわれているようですが、見事に日本の文化と結合して発展しています。3000近い器を年二回、十日にわたって焼きつづけ、胡麻だれ、牡丹餅、緋襷など不思議な風合いを醸し出します。鉄分を含んだ茶碗は体にもよいと聞きますが、手にとった時の味わいは格別です。

このように日頃考えたことない生活の器が、こんなにも豊かな日本の伝統文化を語りかけてくれたのです。修学旅行は、学校教育における「人間力」の育成に欠かせない場面です。未知なる土地を訪れて、本物に触れ「質の高い感動」が得られます。本日の研究発表会もこの視点からの素晴らしい発表です。私どもに、多くの示唆を与えてくれるでしょう。

最後のになりましたが、ご祝辞をいただきます 京都府教育庁指導部学校教育課課長 森 栄一先生、ご指導いただきます 京都府教育庁指導部学校教育課指導主事 本島 知樹先生に心から御礼申し上げます。

《研究発表 I》

沖縄への修学旅行

「平和学習と異文化体験」

～ 将来の自分とふるさとの未来を考えるために ～

滋賀県高島市立高島中学校

村田 秀俊教諭

- 1 はじめに
- 2 総合的な学習の時間の充実、旅行的行事の工夫に改善に向けて
- 3 総合的な学習（ウチナータイム）の取り組み
- 4 まとめとして

沖縄への修学旅行

「平和学習と異文化体験」

～将来の自分とふるさとの未来を考えるために～

滋賀県高島市立高島中学校

教諭 村田秀俊

1 はじめに

(1) 学校および地域の概要・生徒の実態から

本校区は、高島市の最南部に位置し、西は比良山系・東は琵琶湖に接する風光明媚な田園地帯である。総面積は64 km²、人口は7043人、世帯数は2226世帯(平成18年3月末現在)で、小学校も同一校区である。中心部一帯は町並みに城下町の名残をとどめ、豊かな自然環境、歴史や文化・伝統、人のつながりを大切に町づくりが進められてきた地域である。

産業の中心は農業であるが、ほとんどが兼業農家であり、市内はもちろん大津や京阪神方面への通勤者も増えてきた。近年は、新たな住宅地の開発が進み、地域全体のライフスタイルも大きく変化する中で、地域・保護者の価値観や考え方が著しく多様化し、大人社会の変容が、子供の生活環境や学習環境にも大きな影響を与えている。

全国的な傾向である生徒の規範意識や社会性、正義感、倫理観、思いやりの心などが希薄になってきていること、生活習慣・食生活等、健康に生きることの基礎の部分までもが危うい状態であること、「安心・安全」が当たり前のもでなくなってしまうこと、これらは、本校においても例外ではない。また、問題行動・不登校・いじめ・虐待についても、決して安心していられる状態ではない。

家庭や地域の教育力はまだまだ健全であるといわれているが、不安定な場面もあり、その活性化と学校教育との連携の進化が課題であるといえる。

このように、心配な要素は多くあるが、全体として生徒は人なつっこく素朴で、目的意識を持って、落ち着いた学校生活を送っている。今後、克服していきたい課題としては、「受け身的な姿勢」「固定しがちな人間関係」「表現力・コミュニケーション力の不足」があげられる。

子どもたちには、「豊かな自然環境、歴史や文化、伝統、人のつながり」の大切さ・すばらしさを学ばせ、また、この地域を築いてこられた先輩の努力や苦勞をしっかりと感じ取らせ、ふるさとに誇りと愛着をもって、自分の将来を、そして、この地域の未来を切り開いていく力を身につけさせたいと考えている。地域・保護者に関わっていただき、地域に関する学習をさらに積極的に取り入れていきたいと考えている。

本年度学校教育がめざすもの

学校経営の基本方針(重点目標と力点)

○生徒の自主性や自律性を伸ばす校風

- * 指導する場面 と 任せる場面 の調和
- * 生徒の自治活動 と 経営参画の仕組み
- * 学校教育の機能の重視
- 「集団で学ぶ、集団に学ぶ、共に生きる」
- * 個に応じる教育相談体制・機能の充実

○保護者・地域から信頼される学校

- * 基礎基本の定着・きめ細かな指導
- * 地域の教育素材・教育機能の導入
- * 学校評価・外部評価による学校改善
- * 地域ぐるみでつくる安心・安全
- (保護者・地域とともにつくる教育)

○組織的・計画的・継続的な保小中連携

- * 共通テーマによる職員研修
- * めあて・内容の共有 と 交流活動
- (望ましい集団、表現・コミュニケーション力)

○教職員の資質向上・教育のチーム化

- * 校内研究・研修による教育活動の改善
- * 個々の実践と個々の課題の共有
- * 「目標によるマネジメント」

教育目標 「自ら考え 正しく判断し実践できる 心豊かな生徒の育成」

教育実践の重点 と 指導力点・大切にしたい学びの場面・要素

○確かな学力をつける (知育)

- * 少人数授業など学習指導の工夫・改善
- * 学ぶ姿勢・学ぶ習慣・学びの反復・継続
- * 特別支援(個に応じた)教育の推進
- * 国語力の向上(すべての学習の基礎)
- * 表現力・コミュニケーション力の育成

○こころと身体を鍛える(体育・食育)

- * 挑戦・克服・感動体験
- (目的意識・意欲・ねばり強さ・耐性)
- * 食育の重視・生活習慣の改善
- (はやね・はやおき・あさごはん運動)
- * 心身の健康・体力の保持増進

○豊かな心を育む(徳育)

- * 道徳教育・望ましい集団(他を思いやる心・自他を敬愛する心)・読書活動
- * 規範意識・倫理観・正義感・共感的な人間関係
- * 福祉活動・ボランティア活動
- * 人権・障害者理解・国際理解

○地域に学ぶ・未来を拓く(地域学)

- * 環境に配慮した社会の実現(環境教育)
- * 郷土の文化・伝統・人々の営みに学ぶ
- * 自らの生き方を見つめるキャリア教育
- * 地域を学ぶ・生き方を学ぶ「総合的な学習の時間」等(中学生チャレンジウイーク)
- (ふるさとへの誇りと愛着・地域を拓く・自分を拓く)

2 総合的な学習の時間の充実、旅行的行事の工夫改善に向けて

修学旅行の具体化

～なぜ沖縄になったのか？～

本校の修学旅行は昨年度から沖縄になった。それまでは東京方面へ行き、進路学習や平和学習などを目的とする班別自主活動を行ってきた。体験活動や生徒の主体的な取り組みなど工夫はしてきたが、関東での修学旅行を通して得られる学びに限界を感じるようになっていた。

沖縄に修学旅行に行くことは、過去の戦争や現在も続く基地問題などに、正面から向き合うことになる。また、過去の悲劇を語り継ぎ、平和を希求しながら、明るくたくましく生きておられるウチナーンチュとの出会いや、沖縄独自の歴史や文化、自然に出会うことができる。そんな沖縄で、従来の修学旅行では得られない沖縄の魅力や人々のたくましさに直接触れさせてやりたいと考えた。また、旧高島町の頃から、伊江村の海洋センタースポーツ少年団との交流がおこなわれてきており、地域同士の親交も深まっている。伊江村を訪問し、伊江中との交流を通してお互いに学びあい、それぞれの学校のよさをのばしあえる機会を持ちたいと考えた。

～伊江村とのつながり～

旧高島町と伊江村とのつながりは海洋センターが建設されたのが同時期であったという縁で、双方の自然・文化・生活の様子やセンターの運営等の情報交換から始まり、平成6年からスポーツ少年団の交流活動が続いている。こんなつながりから、「沖縄県伊江村伝統芸能文化交流」が高島町制60周年記念事業として企画され、伊江村から教育委員会や青年会のメンバーが来町され、エイサーを通して、伊江村のこと・伊江村の子どもたちのこと・沖縄のことを伝えてもらった。伊江村では、小学校・中学校の授業や運動会で「エイサー」に取り組んでおられる。伊江村の子どもたちは、みんな「エイサー」を学び、大きくなったら青年会に入り、子どもたちに教えるという。伊江島エイサーは村の文化として継承され、世代を超えた人と人とのつながりを作り深めていくという。伊江島は、61年前の戦争で、沖縄戦の縮図と言われるほどの激戦地となり、1500名もの住民、2000名の守備軍将兵（うち徴用人夫1200名）が亡くなられ、生き残った住民約2000名は渡嘉敷島へ強制移送された。また、戦後は強制的な土地の取り上げなどから、土地闘争が始まった地でもある。そんなつらい過去を背負いつつ、現在は、観光や文化の発信で村おこしをしようと取り組んでおられる。「エイサー」もその一つである。

伊江村を訪れることは、異文化に触れ、文化について考え、文化を守り・育てるということについて学ぶことができるのではないかな。また、高島で何ができるのか。どんな生き方をするのかということを考えるきっかけになるのではないかな。など、たくさんの期待をこめて、沖縄修学旅行がスタートした。

これまでの3年生の取り組み

明るく落ち着いた雰囲気の中で、男女仲良く活動できる。全体的にはやや発表が少ないものの、意欲的に学習にも取り組んでいる。沖縄については小学校の時にスポーツ少年団の交流で伊江島を訪問している生徒がおり、また、昨年3年生が沖縄に修学旅行に行っていることや教師からの働きかけ(写真や話)などもあり、全体的に意識は高い方であった。2年生の夏休みには、社会の宿題で沖縄をテーマにしたレポートづくりをしている。そして、昨年の文化祭では、沖縄を題材にした歌で、三線を伴奏にも入れた合唱をしたこともあり、三線に興味を持っている生徒もいる。

これまでの総合的な学習では、1年生では、地域の自然環境や産業、歴史や地域の祭りなどについて調べたりしている。2年生では、TAKASHIMA WORKING PROJECT(職場体験学習)や人権学習に取り組んできた。T・W・Pでは、働くということについて考え、職場体験に向けて自分のよさを見つれたりマナーについて学習した。そして、職場体験(2~4日)を経て、経験したり学んだりしたことを発表しあっている。また、人権学習では大阪人権博物館を訪問し、出張ぎにきたウチナンチュがうけた差別や班ごとの課題について調べて、新聞にまとめた。

修学旅行のコースづくり

行程

○第1日【6/20(火)】

学校  伊丹空港  那覇空港  平和祈念公園(資料館・近江の塔・

平和セレモニー)  読谷村(シムガマ・カガマで追体験)  ホテル(泊)

○第2日【6/21(水)】

ホテル  本部港  伊江港  マリン体験(B&G)  伊江中学校

(交流会・フィールドワーク) 民宿(泊) 《文化体験(島太鼓)》

○第3日【6/22(木)】

民宿 わびあいの里(講演会) 島内サイクリング 伊江港 

本部港  慶佐次川自然体験(カヌー・マングローブ林観察)  ホテル(泊)

○第4日【6/23(金)】

ホテル 県庁前駅  首里駅 首里城散策・国際通り自主研修 

 那覇空港  神戸空港  学校

- ・平和学習と異文化体験、環境学習を柱としたコース設定。
- ・沖縄戦の最後の激戦地となった本島南部での平和学習（平和祈念資料館）と平和セレモニー。
- ・伊江島での平和学習とマリン体験。
- ・人々との交流。
- ・ガマで戦争当時の生活を迫体験。
- ・沖縄独特の文化、自然にふれる。
- ・基地を見る。

3 総合的な学習（ウチナータイム）の取り組み

単元名 ウチナー（沖縄）タイム

単元目標

- （1）修学旅行の訪問地である沖縄についての事前学習を意欲的に取り組むことにより、課題を明確にし、現地での体験をもとに課題解決するというプロセスを仲間とともに学ぶ。
- （2）伊江島の中学生や沖縄の人との交流を通して、お互いに学び合えるようにする。
- （3）沖縄での学習を通して学んだことを、より広い視点で考え、周りの人（地域や学校など）に発信する。

単元(教材)観

つきぬけるような青い空、果てしなく広がる白い砂浜、色とりどりの花、豊かな日の光。「沖縄」というとこんなイメージがすぐに思い浮かぶ。

沖縄は、かつて中国や朝鮮、東南アジアとの交易で栄え、独特の文化を築いてきた。歌や踊りなどの芸能や様々な祭りも盛んである。そして、海や森や川の美しさとともに、沖縄のもう一つの魅力は、沖縄の人たちのおおらかさや温かさなど、その人柄にある。沖縄には、「イチャリバチョーデー」（一度出会えば皆兄弟）という言葉があり、人を差別しない、誰をも迎え入れる精神が脈々と息づいている。

一方、第2次世界大戦末期、艦砲射撃や地上戦、日本軍による虐殺や集団自決の強制などにより25万人もの犠牲者を出した悲惨な歴史と、日本の米軍基地の75%が集中している特異な現状がある。基地があるが故に、これまでにどれだけの問題が起こってきたことか。一昨年8月に起きたヘリコプターの墜落事件は記憶に新しい。また、サンゴ礁の美しい海上に、巨大な米軍の基地を新たに作るなどという計画が実行されようとしている。

事前学習や修学旅行では、沖縄の歴史や文化、戦跡や基地の問題を考え学ぶとともに、沖縄の

人たちとの交流、自然の中での体験を通して、その地域のよさやそこに暮らす人たちの抱えている問題などにも気づかせたい。そして、現代社会の抱える矛盾や不合理を見抜く力を養うきっかけにもさせたいと思う。

また、沖縄修学旅行を通じた学習は、自分を見つめ直す機会となり、あらためて高島地域の自然・文化の素晴らしさを知ることにもつながると考えている。

単元の指導計画（全42時間計画）

- 第1次（第1時～第3時）うちなータイムをはじめよう
- 第2次（第4時～第12時）沖縄基礎講座（テキスト・ワークシートを活用する）
- 第3次（第13時～第18時）平和人権学習を深める
- ①ガマでの悲劇 ②VTR「戦場ぬ童」 ③戦後の沖縄 ④基地問題に揺れる沖縄
 - ⑤VTR「平和な沖縄を返して」
- 第4次（第19時～第22時）コース別学習（学年担当教師4人による講座）
- ①ウチナーグチ ②自然環境（サンゴ・塩・砂糖） ③三線 ④お菓子作り
- 第5次（第23時～第28時）課題選択学習（高中版ガイドブック）
- ①見つけよう②調べよう③考えよう④まとめよう⑤発表しよう
- 第6次（第29時～第31時）修学旅行での伊江中学校との交流に向けて取り組む
- ①高島中学区を紹介資料作成（実行委員会）
 - ②自己紹介カードの作成
 - ③伊江中学生の劇「ガジュマルは生きている」VTR鑑賞
- 第7次 沖縄修学旅行（6/20～23）
- 第8次（第32時～第34時）VTR「さとうきび畑の唄」を鑑賞する
- 第9次（第35時～第42時）沖縄で学んだことをまとめ紹介する（文化祭）

具体的な取り組み

第1次 ワークシート「知ってる？沖縄」で沖縄についての簡単な知識を身につける。また、沖縄の地理について学び、独自の文化が生まれてきた理由を知る。班活動で、自分たちが選択してキーワードについてポスターリングする。

実際の授業の様子

《ガジュマルって何？》

「森の中に住んでいる妖精で、沖縄の豊かな自然を守っています。緑色の毛におおわれているのですが、本当の姿を見た人はいないようです。」

《沖縄病って何?》

「沖縄にはまってしまったわたしたちの担任の先生のような人です。三線を手に気持ちよさそうに詩を歌います。」



正解でもないが、全くのはずれでもない、生徒たちのユニークな答えが出てきた。班の中で話し合いを進めるための「話し合いカード」を準備したこともあり、活発な話し合いが行えた。生徒から出てきた意見に対するコメントでは、話し合いの様子やポスターの工夫、発表の態度などが中心で、正しい答えはこれからの学習で知っていこうというようなところで止めておいた。

今日の班会議のポイント

★楽しく気楽な雰囲気、みんなの意見を出し合おう。聞き合おう。

- ① ○・○をつけているものを出し合う。
- ② 「たぶんこうだと思うんだけど…」というような意見を出し合おう。聞き合おう。
----- 早く進めば、先に進もう! -----
- ③ みんなの意見から、キーワードに対する考えをまとめよう。
自信を持って発表できるキーワードを選ぼう。(二つ)
一つの方向にまとめなくてもいいよ。
いろいろな考えを混ぜ合わせて、発表に向けての準備をしよう。
発表者は、発表するための原稿を考えよう。(ポスターに書けるように)
- ④ キーワードをポスターにしよう。
絵だけにせず、ポイントとなる言葉(内容)は入れるようにしよう。
正解を求めているわけではありません。みんなが感じているイメージを大切にしよう。

- ⑤ 発表は1キーワード1分程度。大きな声で堂々と!

第2次 毎時間沖縄の音楽を聴き学習をはじめ。市販のテキストを読み、教師作成のワークシートにキーワードを書き込むことで学習を進める。

(ワークシート例1)

2年総合プリント (ウチナータイム No. 5)

沖縄戦はなぜおこったのか①・鉄の暴風が吹き荒れた沖縄

(1) ちかづく沖縄戦(集団疎開と対馬丸事件)

① 1931年・・・日本の満州侵略 (a)) → 1937年盧溝橋事件 ()

欧米諸国の批判

② 1941年12月8日

☆日本陸軍・・・イギリス領マレー半島コタバル、タイのシンガラに奇襲上陸

☆日本海軍・・・ハワイの真珠湾を奇襲攻撃

b) の始まり

③ 1942年6月・・・ミッドウェー海戦の大敗で日本の戦局後退 → 制空権の奪還をめざす

沖縄が航空基地として注目される

④ 1943年夏頃から・・・(c)

) など十数カ所に飛行場建設

⑤ 1944年3月、(d) が創設 → 中国大陸や本土から実戦部隊が配属 (7~9月)

各地域では、学校、公民館、民家が兵舎として提供させられた。

軍の方針=「現地物資を活用し、一木一草といえども之を活用すべし」

(食糧・牛・豚・馬など) 飛行場づくり・陣地構築=住民が勤労奉仕隊として強制的に動員

1. サイパン島(沖縄からの移民多い)の陥落 → 「沖縄が攻撃される」ことが予想される → 沖縄県民の不安

2. 7月7日・・・本土・台湾への疎開計画を緊急決定 ← 希望者は少数

【見知らぬ土地で暮らす事への不安&沖縄近海に米潜水艦出没】

なぜ?? c)

司令官【牛島 満】

3. 8月22日・・・奄美人島近くの悪石島付近で (f)) が米潜水艦の攻撃で沈没

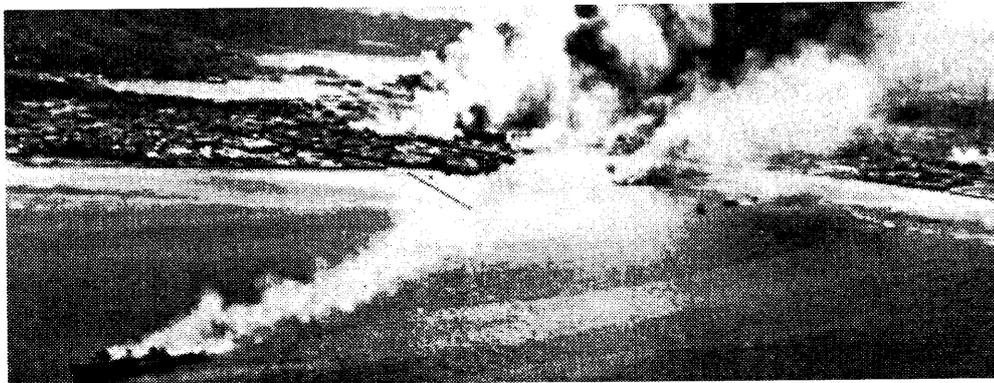
学童825人を含む1700人中、およそ1500人が死亡

4. 10月10日、米軍機 B29 による激しい空襲 (g) 空襲 → 疎開希望者増

那覇市は市街地の90%を焼失、多くの人命・琉球王国時代の貴重な文化遺産を失う

米軍機、約1400機 死者600人 負傷者900人 家屋の全壊・全焼15,080戸 12日には、八重山にも空襲

沖縄戦は法的に正当な戦争



十・十空襲で攻撃される那覇の街 (現在の那覇ふ頭付近)

『沖縄戦から何を学ぶか』 沖縄県教育文化資料センター より

(ワークシート例2)

2年 総合プリント (ウチナータイム No.7)

沖縄戦はなぜおこったのか③・・・鉄の暴風が吹き荒れた沖縄

沖縄戦の特徴

十五年戦争末期の日本最大の戦闘＝住民を巻き込み、醜さの極致として書き記された。

- ①勝ち目のない (a)) であり、本土防衛・国体(天皇制)護持のための時間稼ぎであった。
- ②米英軍による (b)) で多くの住民(非戦闘員)が犠牲となった。
- ③住民を巻き込んだ激しい (c)) が展開された。
- ④疎開などの住民保護対策が不十分なうえ、現地総動員作戦のもとに、住民が根こそぎ動員された。
- ⑤軍人よりも住民の犠牲者の方が多かった。
- ⑥日本兵による (d)) が多発した。
 - 1. 直接手を下した例・・・スパイ容疑による虐殺
 - 2. 死に追いやった例・・・日本軍の命令・指導による (e)) の強要
食糧強奪、ガマ(壕)からの追い出しなどが原因となった死亡

近代沖縄のおわりに・・・

「近代沖縄とは、沖縄が日本帝国主義に吸収・一体化されていく過程であり、沖縄の民衆が思想、文化面で『皇民化』されていく過程でもあった。そして、沖縄戦の中でその一体化が頂点に達したといえる。また、沖縄戦では一体化の裏返しでもある差別と偏見が最も露骨にあらわれたともいえる。」 (「琉球・沖縄史」より)



◎ 90日余におよぶ、鉄の暴風は沖縄そのものを滅ぼしたかに見えた。しかし・・・

沖縄の人々は、

第3次 沖縄にある多くのガマでどんなことが起こっていたのか、体験者の手記を読んで当時の状況を知る。

「戦場ぬ童」は沖縄戦の実録映画で、より強く戦争の悲惨さを感じるきっかけになったようである。

戦後、米軍による占領下での歴史や、基地建設、その後の基地問題、反基地運動などについて学習し、現在も多くの問題が残されていることに気づく。

《「戦場ぬ童」を鑑賞して》

●今まで、たくさん戦争について学習してきたはずなのに、実際になくなった人々の写真、そして、爆撃の映像を見て、とっても怖くなり最初はしっかり見ることはできませんでした。「たくさんの爆弾が落とされた」「何万人も人が殺された」文章ではいくらでも見たことがあったけど、目で見て耳で聞いて、戦争ってこういうことなんだと改めて感じました。ビデオを見ただけでも怖かったのに、沖縄戦を体験した沖縄の人達はどれだけ怖い思いをしたんだろうと思いました。ビデオの中に、「生きていればもう50近いのに」という言葉に切なくなりました。何万人、何十万人という単なる数字ではなく、そこに一人一人の人生があり、そんな人達の未来まで一瞬に奪ってしまう戦争はすごく怖いと思いました。



●ビデオの中で一番心に残っているのは、「米軍よりも日本軍に見つかる方が怖かった」と言っていたことです。同じ日本という国で、同じ日本人が疑われ殺されなければならなかったのか……。同じ人間なのに……。こんなにむごいことが起こっていたなんて。今は、毎日毎日、アメリカ軍のヘリが空を飛び、たくさんの事故や事件も起こっています。こんなところで、亡くなった人々が安らかに眠れるはずがないと思いました。わたしは一分、一秒でも早くアメリカの基地がなくなるように願います。本当の意味での「平和」を願うだけでなく、過ちを二度と繰り返さないようにするために、わたしたちができることをしっかりやっていきたいと思います。



《「沖縄戦や戦後の沖縄の課題」について学習して》

- 戦争というのは、本当に恐ろしいし、今後絶対こんなことは起こってほしくないと思いました。もしどちらかが勝ちその利益を得ても、戦争でなくなった人、大変な目にあった人の悲しみや怒りのほうが、戦争の利益なんかより、ずっとずっと大きいと思います。沖縄には、戦争が終わりもう60年以上たっているのに、なぜ米軍の基地があんなにたくさんあるのか、沖縄に集中しているのか、すごく不思議に思います。これでは、戦争の悲しみ、怒りを必死で忘れようとしている人々も、基地がある限り、戦争のことは忘れられないように思います。もう何十年も苦しんでこられたのだから、早く戦争のことは忘れさせてあげなければいけないんじゃないかと思えます。

《「海に座る ～沖縄・辺野古 反基地600日の闘い」を見て》

- 信じられないほど長い座り込みをされていて、とてもびっくりしました。大切な沖縄だからこそできる活動だと思いました。わたしだったらどうだろう。手を出さず、我慢しまくって、耐えて耐えて耐えまくっていた辺野古の人達の姿を見て涙が出そうになりました。修学旅行に行き、沖縄をこの目で見るとあたり、知っていなければならない状況だなあと思いました。絶対に基地をつくってほしくありません。美しい海が、ずっと辺野古に残っていることを、ここから強く願い続けたいです。

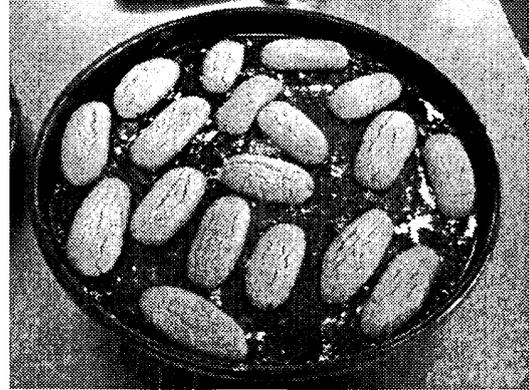


- 座り込む人たちは、先祖が残した土地を基地にするのはいやだし、子や孫に基地を残したくないという切実な思いから行動されていました。しかし、賛成している人たちは、基地を受け入れることで自分たちが生活していけるのだから、それが当然の道だといっていました。どちらの言葉も正しいと思えました。でも、同じところで暮らしている人々が、基地のことで争わなければならないなんて、とても悲しいことだと思いました。しかし、新たな基地建設計画には全員一致で反対ができました。また、地域が一つになれてよかったです。でも、基地は建設されるんだろうな。なぜ、また基地なんだろう。なぜなくすという方向には考えられないのかなあ。

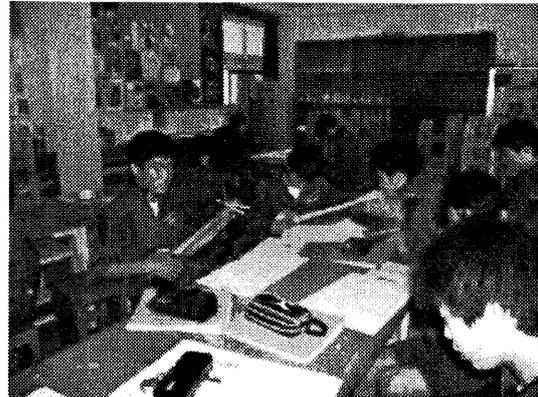
第4次 学年が4つのグループに分かれ、1時間ずつ4つのプログラムで学習（体験）する。



●とってもおいちんすこうができあがった。ちんすこうの材料が豚のラードだということも知り、さすが沖縄のお菓子だと思った。



●初めてさわる楽器にも、どんどん慣れていき、「島人ぬ宝」を少し弾くことができるようになった。



第5次 I：「沖縄戦」「戦後沖縄」、II「自然環境」「歴史・文化」の中から、自分の課題とするテーマ、キーワードを選び、自分なりに調べまとめる。

第6次 伊江中との交流に向けての準備。

第7次 修学旅行当日。天候に恵まれ、体験や学習が計画通り進められた。戦跡と基地が向かい合っている島・沖縄で熱く語る人に出会い、沖縄戦や基地問題が過去のことではなく、沖縄だけの問題でもない。ということを実感することができた。また、滋賀県では味わうことのできない自然や文化を身近に体験することができ、改めて身近にある自然や文化、そして、平和について考えるきっかけになった。



高中平和宣言を読み上げた平和セレモニー

平和セレモニー

～これまでの平和学習を振り返って～

沖縄には、第2次世界大戦末期、艦砲射撃や地上戦、日本軍による虐殺や集団自決の強制などにより 25 万人もの犠牲者を出した悲惨な歴史と、日本の米軍基地の 75 % が集中している特異な現状がある。基地があるが故に、これまでにどれだけの問題が起こってきたか。一昨年の 8 月に起きたヘリコプターの墜落事件は記憶に新しい。また、サンゴ礁の美しい海上に、巨大な米軍の基地を新たに作るなどという計画が実行されようとしている。

「いま」生きる私たちは、沖縄戦の悲劇を忘れてはいけない。「生きたい」と言って散っていった命。同胞と国土を守るために血を流した人々。「かわいそう」という言葉で終わらせてはいけない。基地の問題を遠い沖縄のこととすましてはいけない。

私たちは決して忘れてはいけない。戦争から生まれるものは悲しみや憎しみだけだということ。そして、それを止めることができるのは私たちだということ。

もう絶対に間違った選択はしてほしくない、したくない。どんなときも正しい判断ができる人間でありたい。「一人ひとりの命の大切さ」「人権尊重の精神」を後世にまで伝えていく。それが私たちの義務であり、使命であるから。

～高島中学校平和宣言～

- 1 私たちは、いのちを大切に。
We will strongly believe that life is important and take good care of all lives on the earth.
- 2 私たちは、自分たちで正しい判断ができる集団をつくる。
We will be a group that can judge good and evil for our selves.
- 3 私たちは、平和の尊さを後世に伝えていく。
We will teach the importance of peace to the next generation for a peaceful world in the future.

にぬのし空援に 立九の霊霊れ一の郷・くい多戦
誓努実くし助堪以し年浄顕のら命沖に父の人数は言
う力現伝さにえ来た十財彰まのを縄再母兵命の`語
をにえ・よた二。一を会と戦祖とびの士を兵十に絶
続む`悲りこ十 月基をと没国そ還待も奪士数万す
けか世惨改の七 にとをを者にのるつ`いや万
るっ界さ修塔年 近し結捧にののつ`い`沖人苛
こて恒をしを長 江て成げ対げ海とつす本縄にも烈
と`久次`滋年 の昭しらになかる県県出民のな
こゆ和に争県風 を三県め`たい`いや身のほ沖
こまへ正のの雨 建十民慰慰こてこ故子多尊

財団法人 滋賀県遺族会

平成三年十月二十二日

近江の塔
(碑文)
(平成3年に新に建立)



ヒチリガマの前で真剣に話を聞く。

(このガマの中では82名の尊い命がなくなった)

●ヒチリガマでお話を聞いたとき、とても衝撃的でした。私は、ガマの入り口に近いところでお話を聞いていました。時々ガマの中をチラチラ見ていました。そこは、ここで亡くなられた方々の悲しさがあふれているように感じました。そのガマは、みんなが次々に殺し合う、集団自決をするという、とても悲しいことが起こったガマです。ガイドさんのお話を聞いていると、本当に今では考えられないけど、そんなことがあったんだと実感しました。ガイドさんは、わたしたちに「戦争なんてしてはいけないよ。」と必死に訴えていられました。どんどん話の中に入っていくうちに、私は少し泣きそうになりました。本当に戦争とは、残酷で無意味だと思いました。もう二度と戦争をしてほしくないと思いました。と同時に、世界から戦争がなくなってほしい。と強く願わずにはいられませんでした。

1000人以上の人々が隠れたシムカマ。
(ガマの奥まで入り、真っ暗闇体験をした。
このガマは、英語を話せる老人がいたことで、全員が捕虜となり生き残った)

●漆黒の暗闇に恐怖を感じた。そして、戦時中このガマの中で生活されていた多くの方々のことを思うと、とてもつらかった。



●伊江中体育館に入ったとき、3年生のみんながすごく明るく迎えてくれて、しかもその明るさに圧倒されてしまい、少し引いてしまったような感じでした。フィールドワークで伊江中の人に案内してもらいました。道中でいろいろな話をしたり、休憩所で黒糖をもらったりしてとても楽しかったです。見て回る場所はほとんどが戦争に関



係のあるものばかりで、底に水がたまって真っ暗なガマや、戦中戦後の2年間も男の人が隠れていたというガジュマルなどは、話を聞くだけでなく、実際に見ていろいろと考えさせられました。特に印象深いのが、建物に残っていた、コンクリートの建物です。米軍の攻撃を受けてたくさんの穴が開いているその建物を見て、すごく衝撃を受けました。今にも崩れてしまいそうな建物を見て、本当にここで戦争があったんだなあと、改めて実感しました。伊江中の人と一緒に学ぶことができるとてもよかったです。伊江中の3年生の皆さんから、元気をもらい、いっしょに大切なことを学びました。

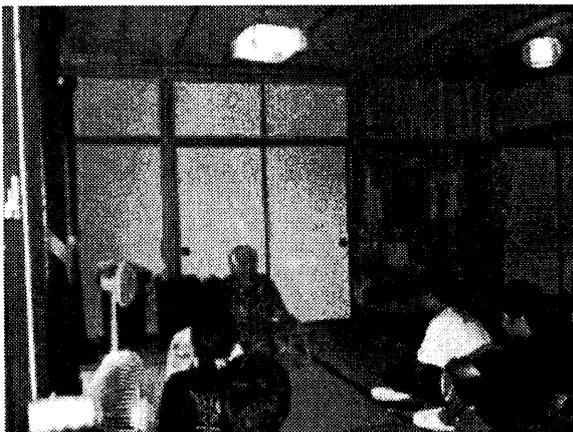
砲弾の後に生々しい公益質屋跡



迫力満点のエイサー



わびあいの里(伊江島反戦平和資料館)の見学と資料館館長の謝花さんとの語らい



●私はカヌー体験で見た光景がとても心に残っています。滋賀県では見る事ができないマングローブ林の中をカヌーで進んでいくというめったにできない事ができてよかったです。カヌーをこぐのはすごく力がいました。右と左の力の強さも等しくないといけないから曲がったりしまくりましたが、やっているうちにまっすぐ進めるようになりました。しかしやっぱりみんなより遅かったです。マングローブ林観察では、マングローブ林をつくっているヒルギ科の木（ヤエヤマヒルギ・オヒルギ・メヒルギ）のことをたくさん知ることができました。また、シオマネキというかにも見る事ができました。どの動植物も自分が住んでいる環境に合わせて形や色を変えたりして、かしこいなあと思いました。マングローブで林でたくさんのかんことを学べてよかったです。



第8次 「さとうきび畑の唄」を鑑賞した。沖縄で学んだことや体験したことと、映像の世界が重なり、涙を流しながら見る生徒が多かった。

第9次 修学旅行に向けての取り組みや修学旅行での学習を全校生徒や地域の人々に発信する。プレゼンテーションによる発表。エイサー、三線による発表。沖縄をテーマにした劇による発表。

4 まとめとして

修学旅行を振り返っての作文より

「宝さがし」

●私は6月20日からの4日間、修学旅行で沖縄各地を訪れました。沖縄では、戦争・歴史・自然・文化・米軍基地問題など様々なことについて学びました。私はこの修学旅行で初めて沖

縄に行き、沖縄の風、温かさを肌で感じ、悲惨な沖縄戦の傷跡をこの目で見、戦争がどれほどたくさんの命を奪ったかを聞くことができました。

沖縄には、ガマと呼ばれる洞窟がたくさんあります。戦争中、そのガマに多くの住民が避難されていました。しかし、そんなガマの中で想像もつかないような悲劇が繰り返されていたのです。「攻めてきた米兵に殺されるなら自分たちで死んだ方がいい」と集団自決した住民。その集団自決に巻き込まれたまだ幼い子どもたち。「戦闘の足手まといになる」と言われ日本兵に殺された老人。私はガマでその話を聞いたとき、言葉が出ず手を合わせて祈ることしかできませんでした。私は戦争でなくなった住民が何人で、どのようになくなったかなんて、事前学習をしているときはそれほど強い関心を持っていませんでした。単なる数字とかとらえていなかったのも、とても強い衝撃を受けました。私は、沖縄での平和学習を通して“命どう宝”命こそ宝という言葉の意味を理解することができました。

戦争が終わって61年。人々の傷が癒えるわけではありません。でも、沖縄の人は明るく私たちを迎えて下さいました。悲惨な歴史を感じさせないとても素晴らしい笑顔でした。私は沖縄という地でたくさんの人と出会い、交流し、仲を深めることができました。修学旅行2日目には伊江島を訪れ、伊江中の皆さんと交流しました。伊江中の皆さんは、私たちの名前や部活、いろんなことをすぐに覚えて下さり、とても親しくなることができました。他にも沖縄の方言を教えてくれたり、島と一緒に散策したり、短い時間でしたが心に残るたくさんの思い出をともにつくることができました。沖縄の人の温かさを感じたのは伊江中との交流だけではありません。島で畑仕事をしておられるオジーやオバーなど、大人の方々も「どこから来たのー」とか「高校生かー」と声をかけて下さいました。「沖縄はよいところやろう」と誇らしげにしていたオジーやオバーの姿はとても輝いて見えました。

私の目に輝いて写ったのは、人の温かさだけではなくありませんでした。沖縄には、特有の素晴らしい自然がありました。私たちは修学旅行3日目にマングローブ林を訪れました。林の中を流れる川をカヌーで進み、林で生きる様々な生き物の観察をしました。潮の満ち引きによって生まれた亜熱帯地方独特のマングローブ林はとても神秘的でした。マングローブ林の景色とともに、私の心に刻み込まれた言葉があります。「沖縄独特の素晴らしい自然に感動したように、地元に戻ったら、身近にある自然や環境のすばらしさに気づき、もっともっと好きになって下さい。」案内して下さいましたガイドさんの言葉です。

私は、この修学旅行でお金では買えない大切な宝物を見つけることができました。沖縄に行って、肌、目、耳など自分の体で感じた自然や戦争の爪跡。そして、たくさんの人との出会い。沖縄すべてを案内して下さいましたガイドさん、戦争のことを話して下さいました人々。伊江中の皆さん、島のオジー、オバー……。この修学旅行を通して人と出会うことの大切さ、楽しさを学ぶことができました。私は沖縄での平和学習や体験で学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。また、これらの学習や体験を生かし、この高島で、自然や環境を見つめ直し、平和を求めて、どのように生きていくのかということをしっかり考えていきたいと思えます。自然と共に生きること、人と共に生きることが平和の源であると信じながら……。

成果と課題

私の担任している学級の教室には、シーサーが置かれ、沖縄の海の絵はがきやタペストリーが飾られ、黒板にはゴーヤやハイビスカスの磁石が着けられている。私が持ち込んだモノもあるが、自然と増えてきている。体育祭の学級旗のデザインも沖縄がモチーフになり、現在取り組んでいる文化祭の劇やスタンドグラスのテーマも沖縄である。生徒たちにとって、事前学習も含めた沖縄修学旅行というのは、本当に思い出深いものになっているのだと感じさせられる。

これだけ生徒たちが沖縄にこだわっているのは、修学旅行を「学びの場」として充実していくため、総合的な学習の時間のあり方を工夫・改善していったことが大きな要因であったと思う。また、“沖縄”という一つの大きなテーマに対して、総合的な学習の時間だけでなく、社会や理科、英語や美術などの授業で、いろいろな視点を切り口にして学習する時間があり、横断的な学びができたこともよかった。今後も、修学旅行に向けての取り組みに限らず、総合的な学習と他教科との横断的なカリキュラムの作成などを進めていけるとよいと思う。

沖縄修学旅行の一番のねらいは平和学習にあった。戦争の悲惨さや残虐性を知り、平和・生命の尊さをわからせ、平和を守る信念を確立させたいという願いがあった。観光地としての開発が進み、61年前の悲惨な過去をほとんど感じることができないところであったが、戦跡に立つと、生徒たちのざわめきはおさまり、静かな気持ちで目の前にあるものに向き合っていた。果たして生徒たちが受け止められるのだろうか心配になるくらい重い平和ガイドさんの思いも、涙を流しながら聞く生徒がいたり、軽い気持ちの観光気分である自分を反省する生徒がいた。沖縄で、実際に見たり聞いたり体験したりした生徒たちは、今、そして、これからどうしなければならないのかをしっかりと考え行動していかなければならないのだ、という思いを持つことができていたようである。また、命の大切さについても改めて深く考える機会になった。頻発する痛ましい事件に対する疑問や怒りを、日記や人権作文に綴る生徒がたくさんいる。周りにいる仲間や後輩への心遣いなどに変化が見られた生徒もいる。生徒たちの変化に、沖縄での平和学習の大切さを実感した。

前述の作文からも、貴重な学びがたくさんできたのだと手応えを感じることもできたのだが、沖縄では、平和学習だけでなく、独特の自然環境や文化から、また、人との関わりの中からいろいろなことを感じ学ぶことができたということがわかる。「学びの場」として本当にふさわしい場所であると改めて強く感じることもできた。

本校の修学旅行は3泊4日である。3泊4日というのは県内でも2～3校だけになった。3泊4日の修学旅行が実施しにくくなっているように聞く。しかし、沖縄本島だけでなく、伊江島に渡り、地域の歴史や伝統・文化を学び、受け継いでいこうとしている中学生。中学卒業と同時に島を離れ下宿生活を送り、何年後かにふるさとに戻り、ふるさとを支える一人としてがんばっておられる青年。そして、地道な平和活動に取り組んでおられるお年寄りや農作業をされている方々の地域を思う誇りに出会うためには、3泊4日の修学旅行でないとできない。

本校が推し進めたいと考え、実践している『地域に学び、未来を拓く』という、総合的な学習の素晴らしい生きた教材との出会いをもとめ、修学旅行をその学びの一場面としてとらえながら、

1年生、2年生、そして3年生と系統立てて学習を積み上げ、感じる力、考える力、発信する力を育てていかなければならないと思う。

平和人権学習の深化のために、異文化に学ぶために、独特の自然や文化にふれるために、地域を支え地域で生きる人々との出会いを求めて、今までの自分を振り返ったり自分の生き方を考えたりするとともに大きなチャンスを求めて、充実した修学旅行をつくっていきたいと思う。

《研究発表 II》

「北海道修学旅行から」

—教育課程の見直しに伴い、総合学習との整合性を重視する—

京都府八幡市立男山東中学校

戸田 孝一教諭

山口 敏彦教諭

山名 博市教諭

- 1 はじめに
- 2 修学旅行の変更（信州方面から北海道へ）
- 3 修学旅行実行委員会の活動
- 4 北海道修学旅行から
- 5 成果と課題

1. はじめに

(1) 市域の概要

八幡市は、北緯34度52分、東経135度42分、京都府の南西部、木津川・宇治川・桂川が合流して淀川となるほとりに位置し、京都市と大阪市のほぼ中間にあって、交通至便な立地条件を有している。市の形状は東西6.7km、南北8.5km、北を頂点としたおおむね水滴型の地形で、四か所の飛地を含めた総面積は24.38km²である。市域の西部は、標高140mから40mの北高南低型のなだらかな起伏した丘陵地で大阪府枚方市と接し、南部は標高40m前後の丘陵地が東方の木津川に向かって傾斜し、京田辺市に連なっている。北部から東部にかけては、木津川を境界にして、大山崎町・京都市・久御山町・城陽市と接している。

本市は、2万年前の旧石器時代には、既に先人がこの地で生活しており、その痕跡が発見されている。貞観元年（859年）、男山に石清水八幡宮が造営されて以来、その門前町として栄え、淀川による水運の便と、京都と大阪、奈良を結ぶ地の利により、交通と経済の中心地として発展した。明治22年の町村制によって設置された八幡町・都々城村・有智郷村が、昭和29年10月に合併し、人口約1万6000人の八幡町として、現在の市域を形成した。昭和47年から男山団地の開発が主因となって、人口の急激な増加をみるに至り、昭和50年には5万人を超え、昭和52年11月1日に市制を施行した。京都府下では、11番目、全国では645番目の市として八幡市が誕生した。平成18年4月末日現在では、人口が7万3865人、世帯数が2万9266世帯となっている。

(2) 本校区の概要

本校は、市域中心部（市役所）から南南西の方向約4kmの所にあり、校区は、極めて広く、本市の面積の約半分を占める。また、校区の境界は、本校から見て、南西部が大阪府、南東部が京田辺市と接している。また、木津川を挟んで、東部が城陽市、北部が一部久御山町に接している。校区の北部の一部は、古い歴史を持つ八幡市立男山中学校の校区と境し、西部は、八幡市立男山第二中学校の校区と接している。校区にある小学校は、本校校区の西側の約半分を占める八幡市立南山小学校と、南側・東側・北側の広大な田園地帯に所在する八幡市立有都小学校とがあり、平成14年度より欽明台の新興住宅地に新たに美濃山小学校が開校した。これらの三つの小学校の校区が本校の通学圏である。本校は昭和61年開校より、昨年で創立20周年を迎え、「大人の学校」としての発展を期している。

(3) 学校経営方針

①教育目標（めざす生徒像）

- ・知・徳・体の調和がとれ、広い視野で物事を考える生徒の育成
- ・豊かな感性と人権感覚を備え、正しい判断で行動できる生徒の育成
- ・自ら学び、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち続ける生徒の育成

②校訓

「聡く 豊かに 逞しく」(Clever Afluent Powerful)

③教育推進のモットー

- ・入りの安心
- ・中の快適
- ・上がりの満足

④教育の方針と目標

「効果のある学校」(Effective School)をめざし、基礎学力の定着と向上を最優先する教育課程を工夫し、

- ・「CRT（国数英）テスト」で全国平均を上回る。
- ・山城地域で有数の学力を持つ学校にする。

⑤「学校の社会的責任」(School Social Responsibility)を自覚し、顧客満足を最大限に追求する教育活動を展開し、

- ・安心・安全・快適＝信頼の学校づくりの推進
- ・教育活動・指導全般の快適化とUD化を図り、不登校生徒の防止・解消に努める。

2. 修学旅行の変更（信州方面から北海道へ）

（1）修学旅行地を北海道に変更した理由

①前・後期制導入と教育課程の見直し

本校では、平成16年度からの前・後期制導入を見据え、15年度より教育課程全般の見直しを進めてきた。

学年行事については、従来、1年スキー学習、2年社会見学、3年修学旅行としてきたが、1年のスキー学習は1泊2日で準備や時間をかける割りに非効率であるとして廃止し、スキー学習の費用と合わせることで18年度より修学旅行を信州から北海道へと変更することとした。

②教育委員会内規の緩和

八幡市では、「泊を伴う学校行事等に関する内規」により、費用面や交通手段の制限があったが、前・後期制導入を見据えた教育課程の全面的見直しということで理解を得て、内規の見直しと制限の緩和につながり、航空機の使用も教育委員会との個別協議によって可能となった。

③総合学習との統合性

本校の総合学習では、3年で「豊かな人権感覚と国際性の涵養」を掲げ、人権学習の中でも、マイノリティとしてのアイヌ民族の歴史や文化、差別問題も扱っており、北海道修学旅行の目的の中に位置付けることとし、学習したことを現地で実際に「見る・聞く・体験する」ことで、さらに充実させることを目指した。

④雄大な大自然の中での体験学習を重視

スケールの大きい北海道の自然・農場・牧場で中での体験学習を通して、雄大な大自然のすばらしさを実感させる。

⑤移動時間の短縮と飛行機を利用した移動の体験を重視

バスの移動は5～6時間かかり、飛行機を利用することにより、行程にメリハリができ時間も短縮される。また、飛行機の利用の経験は有意義である。

⑥保護者への説明会

16年度からの前・後期制導入に伴う教育課程説明会を15年度末に開催し、上記理由を説明し、理解を得、特に異論などはなかった。

教育課程の詳細を決定した16年度当初にも教育課程説明会を開催し、保護者からは北海道修学旅行への大きな期待がうかがわれた。

⑦校長会での説明

16年度当初の市内校長会で、18年度からの市内初の北海道修学旅行実施について校長が説明し理解を得た。

（2）1回目の下見（16年度3月18日・19日）

反省として、北海道をよく知っている教師がいなくて、修学旅行の学年体制も決まっていない状態であったので、旅行業者（入札制）任せになって学年は受け身の状態であった。

1回目の下見の打ち合わせでは、旅行業者より、1回目の下見の大きな目的は、①飛行場での集合・移動・搭乗等の流れの確認をする。②アイヌ博物館での活動の確認をする。③宿舎のオーナーへの挨拶・宿舎の確認をする。④農業と酪農体験の確認をする。⑤交流する中学校への挨拶をする。という5点を確認した。

したがって、初年度でもあり挨拶があるので、教頭と学年教師で下見を行った。

下記の口内は1回目の下見の報告書です。

修学旅行の下見 (3月18日・19日)

3月18日

- ① 伊丹空港 9:30 → 新千歳空港 11:10 (昼食)
- ② 新千歳空港 12:00 → ノサンホーク 12:15 (打ち合わせ)
※昼食・様々なアウトドア体験ができる。
- ③ ノサンホーク 12:40 → 二風谷アイヌ博物館 13:50 (見学)
※格技場程度の館内の広さ+外に家のモデル・講話会場
- ④ 二風谷アイヌ博物館 14:20 → コテージ悠遊 16:00 (挨拶)
- ⑤ コテージ悠遊 16:10 → ペンション自然舎 → バリヤフリーの宿とうもろろ
→ 美馬牛中学校 15:30 (挨拶) → ファームイン富(トム) 夢 → コテージ悠遊 19:00
※2~5名の部屋+食堂+風呂・洗面所があり、20名程度の収容の宿舎
※教師は生徒と宿泊しない方が体験の意義が深まる。
※全校生徒が13名であり、交流に前向きではない。

3月19日

- ① コテージ悠遊 8:40 → ホテルベルヒルズ 8:50 (挨拶) → コテージ悠遊牛舎 9:10
※教師の宿舎(本部) ※10頭程
- ② コテージ牛舎 9:20 → 北海道伝統美術工芸村(雪の美術館・優佳良織工芸館) 11:10
※生徒が好むものではない。
- ③ 北海道伝統美術工芸村 11:30 → 川村カ子(ね)トアイヌ記念館(個人経営?) 11:45
※説得力がある。
- ④ 川村カ子ト記念館 12:10 → ? (昼食・土産物場所) 12:20
※十分に対応できる。
- ⑤ ? 12:40 → 旭山動物園 12:50 (見学)
※無料、広くて自然がいっぱい。
- ⑥ 旭山動物園 13:15 → 旭川空港 13:30 (昼食)
※土産物も十分である。
- ⑦ 旭川空港 14:30 → 伊丹空港 16:20

感想

① 学校 → 伊丹空港まで、約1時間

伊丹空港 → 新千歳空港まで、1時間30分

新千歳空港 → 二風谷まで、約1時間30分

二風谷 → 宿舎まで、約1時間40分 ~ 2時間40分

※一日目だけで、移動時間が約6~7時間もかかる状態である。

◎伊丹空港 → 旭川空港なら、半分の時間でできるので、その分を活動に当てることができる。

※現状では、143名乗りの飛行機しか運航していない。(変更の可能性あり)

②新千歳空港発着なら、一日目は、1時間30分程度の見学・体験しかできない。

また、三日目は、2時間弱の小樽の自由行動(昼食・土産)しかできない。

※下見中、あまりの移動の時間が長い上、活動が農業・酪農体験で多くを使ってしまう状態であったので、旅行業者に、①北海道伝統美術工芸村②川村カ子ト記念館③旭山動物園を見学したいと希望し、2日間のスケジュールを1日目で消化して、2日目に3つの場所を見学しました。

(3) 下見の内容を学年会議で報告・検討

学年会議での教師の意見

- ・移動に多くの時間がとられ活動が少な過ぎる。
- ・活動では農業と酪農体験に多くの時間がとられ過ぎる。
- ・農業と酪農体験だけがメインでは、いくつかメインがなければ、全員が1つでも楽しかったと言えるものがなければよくない。
- ・クラスが半分に分かれることは残念であり、これまでのクラスで分宿・活動を通してクラス作りという目標がゼロに近い状態になる。
- ・北海道に変更して、費用が高くなる上、活動は充実しないでは、保護者も生徒も納得できない。

学年の方向性

①旭川空港が利用できない場合

A:費用が6万円を超えても農業・酪農体験を半日にし、旭山動物園の活動を入れる。函館の自由散策の時間を確保するために、2日目は函館に宿泊する。

(上限を6万円としていた。2日目は農業・酪農体験のみでバスの使用がない状態で連泊の予定であった)

B:移動時間がかかり過ぎるので、富良野方面を止めて、新千歳空港から近い場所で活動の豊富な場所をゼロから考える。

※学年としては、旭川空港が利用できない場合は、移動時間の無駄が多いのと、クラスがばらける理由から、B案を強く希望する状態であった。しかし、富良野方面の下見がすべてパーになる大きな問題と責任を感じている状態であった。

②旭川空港が利用できる場合（ほぼ可能性がない）

- ・農業・酪農体験を半日にし、旭山動物園の活動を入れる。
- ・函館の自由散策の時間を確保するために、2日目は函館に宿泊する。

(4) 学校長に報告・検討

- ①旭川空港の利用できる可能性も低いのでゼロから考え直してもよい。
- ②生徒が良かったと思う修学旅行にしよう。

(5) 学年で検討

①旭川空港が利用できその他の方面も検討し、最終的に富良野方面に決定した場合

1日目：旭川空港→川村カ子（ね）トアイヌ記念館→北海道伝統美術工芸村→宿舎（富良野）

2日目：酪農体験→旭山動物園→宿舎（函館）

3日目：函館の自由散策→新千歳空港

- ②1日目の昼食は費用内をお願いしたい。
- ③3日目の夕方は、軽食をお願いしたい。
- ④旭川空港の利用できる可能性は、ゼロに近いのでゼロから考え直したい。空港から、宿舎の移動が1時間～1時間30分程度で、活動の種類が豊富にあるような方面を希望する。また、クラス単位で宿泊できることを希望する。

(6) 旅行業者に報告

- ①旅行業者に計画してもらった行程・内容は、生徒も保護者も納得できるものではない。もちろん教師も納得できない。

- ②北海道をよく知らない担当者では困るので、北海道の修学旅行を経験されていて、よく北海道を知っている担当者をお願いしたい。
- ③学年で検討した4点の内容を報告し、できる限りの候補方面・内容を早急に準備して欲しい。
- ④その候補の中から学年・学校で検討し決定したい。

(7) 旅行者より候補方面の報告

- ①ニセコ方面→農業・酪農・ラフティングなど、様々な体験学習が豊富にできる。また、白老ポロトコタン（アイヌの博物館）が途中にある。新千歳から白老ポロトコタンまで40分で、白老ポロトコタンからニセコのペンション村まで1時間である。
- ②ペンション村はクラス単位で宿泊できる。
- ③ニセコのペンション村からキロロホテルまでは1時間30分で、キロロホテルから小樽までは40分である。

(8) 旅行者の報告内容を学年で検討

パンフレットをもとに、旅行者に問い合わせてもらったり、直接に問い合わせたりして、活動内容と限られた時間・費用を合わせて検討した。

また、北海道に変更して初年度ということで、下見を2回計画してもらったが、ラストチャンスで失敗が許されない状態であったので、修学旅行の行程を決定して下見を行うことを学年で確認した。

- 1日目 ①白老ポロトコタン（見学・体験） ②洞爺湖・昭和新山（トイレ休憩）
- 2日目 ①農業・酪農体験 ②朝里岳山頂で雪遊び ③学年レク（夕食・風呂後）
- 3日目 ①小樽自由行動 ②北海道開拓の村見学

以上の活動を基本に下見を実施する計画をした。

(9) 2回目の下見（17年度7月25日・26日）

<p>修学旅行の下見（7月25日・26日）</p> <p>7月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 伊丹空港 8:00 → 新千歳空港 9:45 ② 新千歳空港 10:00 → 白老ポロトコタン見学 10:45 <ul style="list-style-type: none"> アイヌの公演（歴史・歌・踊り）30分程度 体験学習（ムクリ・刺繍・彫刻）60分程度 博物館等見学 30分程度 <p>※活動内容が2時間ではあるが、アイヌの歴史・伝統を学べ、充実した時間が過ごせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 白老ポロトコタン 12:00 → 昼食 → 昭和新山・熊牧場見学 13:45 <ul style="list-style-type: none"> ※トイレ休憩にはなるが、景色を楽しむ感じではない。 ※熊牧場も700円の価値はない。 ④ 昭和新山・熊牧場 14:00 → サイロ展望台見学 14:25 <ul style="list-style-type: none"> ※トイレ休憩・洞爺湖等の風景の雄大を感じられる。 ⑤ サイロ展望台 14:35 → ニセコペンション見学 15:30（バブ・キサラ・陽の当たる場所・プチハウス505） <ul style="list-style-type: none"> ※部屋数に余裕がある状態ではないが、教師を間の部屋にして、男女である程度区切りをつけられる。（1部屋は4名～8名）風呂は、どのペンションとも3～5名程度の規模である。 ※本部は少し余裕のあるバブが望ましい。

- ⑥ ニセコペンション 17:30 → ふきだし公園見学 15:20
 ※2日目の体験学習の集合場所・昼食場所（弁当）として、おいしい湧き水・広い芝生等の自然があり、ぜひ行かせてやりたい。
- ⑦ ふきだし公園 16:35 → キロロホテル 17:20
 7月26日
- ① キロロホテル 8:30 → 朝里岳山頂見学（ゴンドラ・雪遊び） 8:50
 ※雪がなければできない。予想より狭く、スキーウェア・長靴のレンタルをしなければならぬなど、金額に対して活動内容に問題がある。
- ② 朝里岳山頂 9:10 → キロロホテル見学（宿舎・レク場所） 9:30
 ※食事はすべてバイキングであり生徒にとって最良である。
 ※部屋は、男子が1階の和室5名部屋・女子が2階の洋室の4名部屋が基本であり、リゾートホテルなので大変きれいである。
 ※学年レクの広間は、少々狭いが十分にできるスペースである。
- ③ キロロホテル 10:10 → 小樽見学 11:00
 ※まさに修学旅行のために作られた雰囲気があり、生徒が十分に楽しめる。お土産・昼食も十分に対応できる。
- ④ 小樽 11:30 → 札幌市内車窓・昼食 12:30
 ※30分程度の時間で十分であるので、札幌市内車窓も入れた方が生徒も北海道に来た思い出になる。
- ⑤ 札幌市内 13:45 → 北海道開拓村見学 14:10
 ※明治・大正の建物等がそのまま移されていて説得力があり、広くて自然がいっぱいである。
- ⑥ 北海道開拓村 15:00 → 1日目の昼食予定場所？見学 15:20
 ※きれいで十分に対応できる。
- ⑦ ? 15:50 → 新千歳空港 16:00

- ⑧ 新千歳空港 17:40 → 伊丹空港 19:30

感想

- ① 1日目 白老ポロトコタン（公演・見学・体験学習）→サイロ展望台（自然観賞）
 →ペンション
- 2日目 酪農・牧畜・農業・カルチャー（アイスクリーム作り等）体験→ふきだし公園（昼食・休憩）→アウトドア体験（ラフティング等）→キロロホテル→学年レクレーション
- 3日目 小樽自由行動（お土産・昼食）→札幌市内車窓→北海道開拓村
 以上の行程がベストであると思われる。
- ②当初は、費用を6万円までに収まるように努力したが、朝里岳山頂での雪遊びが雪がなかったらできないことが考えられる。もし、できない場合は、下見でを行うに当たり、生徒の活動内容を充実させるためには、アウトドア体験を入れなければならないと感じた。費用が6万円以上となるが、アウトドア体験が一番の思い出になる生徒が多いと予想される。

※学年・学校で検討後、保護者説明会で報告する。

3. 修学旅行実行委員会の活動

(1) 修学旅行実行委員会について

修学旅行実行委員の決定（各クラス男女各1名）し、修学旅行に関わる内容を考えたりクラス・学年に説明する。生徒には、11/25（金）の説明会で説明・依頼をし、12/7（水）までに決定する。（修学旅行実行委員会指導は、戸田・副担任中心に行う）

(2) 実行委員会の動き

- 第1回 12/ 8（木） 役割確認・実行委員長等の決定・調べ学習1について
- 第2回 2/ 2（木） 学年レクリエーション・校外学習・調べ学習2について
- 第3回 2/ 9（木） 学年レクリエーションについて・調べ学習3について
- 第4回 2/20（月） 合同終学活・校外学習について
- 第5回 3/ 9（木） 3年になって決める事項について

(3) 2年で指導する事項

- ①北海道（地理・歴史）学習
- ②修学旅行（実施要項案）の説明
- ③修学旅行の行程確認
- ④修学旅行の活動内容確認
- ⑤アイヌ文化の歴史学習
- ⑥学年レクリエーションの内容検討

(4) 3年になってから早急に決めなければならない事項

- ①バスの座席
- ②行きの飛行機の座席
- ※1日目の昼食の座席はその場で指示
- ※ポロトコタンのショー・体験学習の座席はその場で指示
- ③ニセコペンションの部屋割
- ④ニセコペンションでの入浴の時間割
- ⑤ニセコペンションでの食事の座席
- ⑥ニセコペンションでの役割分担
- ⑦体験学習の選択の決定
- ※体験学習でのバス座席・学習の座席は自由
- ※2日目の昼食は範囲を決めて自由
- ⑧ラフティングのグループ・順番の決定
- ⑨キロロホテルの部屋割
- ⑩キロロホテルの食事の座席
- ⑪キロロホテルの学年レクリエーションでの座席

- ⑫帰りの飛行機の座席
- ⑬学年レクリエーションの内容（確認程度）
- ⑭修学旅行での目標・約束事（ルール・マナー）
- ⑮修学旅行委員の役割分担
- ⑯しおり作成
- ⑰その他？

(5) 今年度の予定について

☆今後の修学旅行に関する資料は、ファイルにすべて綴じる指導をお願いします。

- 11 / 18（金）・北海道学習（地理・歴史）
- 11 / 25（金）・修学旅行説明会（実施要項案について説明）
- 12 / 9（金）・修学旅行の行程（地図で学校～学校まで）について（実行委員）
 - ・調べ学習の説明・発表班の決定（実行委員）
- 2 / 3（金）・校外学習の要項説明（実行委員）
 - ・調べ学習1の発表（各班代表）・・・司会・進行：実行委員
 - ・活動のポイントとなる具体的内容説明（教師）
 - ①ポロトコタンでの活動について（ショー・博物館見学・体験）
 - ②洞爺湖
 - ③昭和新山
 - ④ペンションについて（部屋・風呂・食堂など）
 - ⑤体験学習について（選択できる体験）
 - ⑥噴き出し公園について（昼食・散策）
 - ・調べ学習2の説明・発表班の決定（実行委員）
- 2 / 10（金）・調べ学習2の発表（各班代表）・・・司会・進行（実行委員）
 - ・活動のポイントとなる具体的内容説明（教師）
 - ⑦ラフティングについて（内容）
 - ⑧キロロホテルについて（部屋・風呂・食事）
 - ⑨学年レクリエーションについて（クラス対抗を基本）
 - ⑩小樽運河近辺の過ごし方について（散策・昼食・お土産）
 - ⑪北海道名産（お土産）
 - ⑫北海道開拓村について（展示物）
 - ・調べ学習3の説明・発表班の決定（実行委員）
- 2 / 17（金）・調べ学習3の発表（各班代表）・・・司会・進行（実行委員）
 - ⑬人権博物館⑭アイヌの歴史の説明（教師）
- 2 / 21（火）・合同終学活（校外学習の諸注意を実行委員・教師から）
- 2 / 22（水）・校外学習（人権博物館）
- 2 / 24（金）・人権博物館の感想文・校外学習全体の反省（教師）
- 3 / 10（金）・3年になってから早急に決めなければならない事項（実行委員）

※先生の話の後、紹介をしてもらい、自己紹介・あいさつ (<はじめに>の文章を読む)

<はじめに>

修学旅行実行委員になった??です。例：思い出の残る修学旅行になるように頑張りますのでよろしくお願いします。 など一言！

今日から、修学旅行に向けての取り組みがスタートします。
僕たち・私たちの修学旅行なので、なるべく先生たちに頼らないで、実行委員が中心となって頑張りたいと思います。みんなもすばらしい修学旅行になるように協力して下さい。

<今日の内容の司会・進行>

※今日は、5枚のプリントを配る予定です。すべてファイルにとじて下さい。
今後もたくさんのプリントを配ることになりますが、すべてファイルにとじるようにして下さい。

1. 「修学旅行に向けて本格的にスタート」のプリントを配る。
2. 最初の7行を読む。
3. 裏の修学旅行について(2年生での予定)の説明をする。
 - ・<実行委員会の動き>は、このように、5回の会議を計画しています。内容は見ておいて下さい。
 - ・<今後の予定について>ですが、今日は時間がないので見ておいて下さい。
 - ・12/9、今日の内容の所を見て下さい。
- ①地図で、修学旅行に行って、帰って来る！ということで計画しています。後で、説明しながらやってもらいます。
 - ②調べ学習の説明・発表班の決定をします。最後に説明します。
4. 修学旅行の行程(地図で学校～学校まで)について説明する。
 - ・では①つ目、「地図で修学旅行に行こう！」の<修学旅行の行程>を見て下さい。これは、実際の修学旅行の予定の移動・活動コースです。と説明する。
 - ・右側は、これから、地図のA・B・C・Dと北海道修学旅行参考地図(2枚)を配りますので、右の指示にしたがって、修学旅行に行って、帰って来て下さい。
5. 地図のA・B・C・Dと北海道修学旅行参考地図を配る。(2枚)
6. 作業の指示をする。
 - ・では、指示1・2・3・4にしたがって、移動を色ペンで記入して下さい。
 - ・実行委員も初めてすることなので、質問は先生にして下さい。
 - では、頑張って下さい。
7. 作業の終了を指示し解答プリントで確認させる。
 - ・時間ですので、指示5、解答プリントを配りますので、自分はどうだったか確認して下さい。
8. 調べ学習について説明をする。
 - ①プリントの文章の3行を読む。
 - ②プリントを3枚配って、それぞれの項目について調べることを確認する。
 - ③冬休みの社会科の宿題にもなるので、社会科の時間に山口先生よりくわしい説明があることを確認する。
9. 調べ学習の発表班の決定をする。(1・2・3のすべて)
 - ・方法はクラスで！
 - ※時間がかかるようであれば、後で班代表がくじ引きをする。
10. 「今日の内容はこれで終わります。」
 - 「最後に、??先生よりまとめをしてもらいます。??先生お願いします。」
 - ・自分の席に着く。
11. プリントをファイルにとじ指示をする。(先生の話が終了しだい声かけをする)
 - ・「プリントをファイルにとじてなくさないようにして下さい！」

(6) 3年生での事前の取組

年度の当初は「学級組織作り」をはじめとした、様々な体制作りの時期であり、修学旅行の事前の学習や取組だけに時間を確保することが困難なため、北海道の歴史や文化などの事前学習よりも、具体的な活動に関わる取組を中心に学活や実行委員会を運営していった。

〈当日までの学活・実行委員会の主な活動〉

月日(曜日)	学活の主な活動内容	実行委員会の主な活動内容
4/20(木)		<ul style="list-style-type: none"> ・目的をもとに「学年目標」の実行委員会原案の検討 ・第1回学活の指導内容の確認と進行の確認
4/21(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行学年目標について実行委員会原案の提示と承認 ・体験学習(2種目)のアンケート実施 ・「修学旅行に向けて考えてみよう」読み合わせと班討議 	
4/27(木)		<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスから出た意見の交流 ・第2回学活の指導内容の確認と進行の確認
4/28(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行までの主な活動の確認 ・体験学習決定種目の発表 ・ラフティングのグループ発表 ・各種内容の確認(バス座席・部屋割りと部屋内役割分担・食事座席・入浴順等) 	
5/1(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・座席や分担決め① ・ルールやマナーの確認①(飛行機内・バス内・宿舎内・ラフティング時・バイキング時) 	
5/8(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・座席や分担決め② ・ルールやマナーの確認② 	

	・学年レクの座席、内容の確認	
5/11 (木)		<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの学活等の進捗状況の交流と学級目標の交流 ・しおり作成に向けての内容確認と役割分担 ・「出発式」の内容確認と役割分担 ・第3回学活の指導内容の確認と進行の確認
5/12 (金)	※修学旅行・進路保護者説明会 ・前回までの積み残しの内容の確認と作業等	
5/15 (月)	・各クラスごとの準備としおり原稿の作成等	※5/15・16で係別会議
5/18 (木)		<ul style="list-style-type: none"> ・「しおり学習」に向けての指導内容の確認と進行の確認 ・「結団式」に向けての役割分担 ・学年レクの準備
5/19 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・しおり綴じ ・しおり学習① 	
5/22 (月)	・しおり学習②	・前日準備と結団式の確認
5/24~26	修学旅行	
5/29 (月)	・修学旅行のまとめと感想	・実行委員会としての修学旅行のまとめ

※(金)の「学活の主な活動内容」に関しては年間計画における「総合的な学習の時間」を活用

(7) 〈実行委員会の指導を通しての基本的な考え方〉

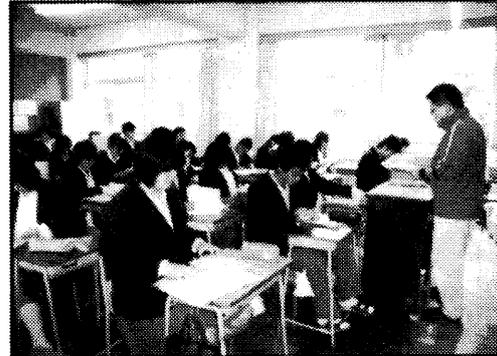
①「学校生活の延長線上の活動であること」

修学旅行が宿泊を伴う校外学習である以上、日常的な学校生活のルールを全て当て

はめるわけにはいかないが、教育活動の一環である以上、学校教育目標や指導の基本に沿ったものになることは当然のことであるし、健康安全上の観点や旅程の観点からも、一定のルールの中で実施されることを理解させる。

②「より主体的に取り組むための話し合い活動を充実させること」

上記①のように一定のルールは設定されるものの、「言われたからするだけ」「決められているからその通りにするだけ」という活動で終わることのないよう「なぜそれが必要なのか」「そのために自分たちが何をすればよいのか、何をしてはいけないのか」ということを考えさせたり、自分たちの中でルールを決めさせる過程を通して修学旅行に、より主体的に取り組むことができるようにさせる。



③「各活動に意欲的に取り組ませること」

ともすれば教師やクラスの代表者の指示で動くことが多くなりがちな「修学旅行」

であるが「自分が何係なのか」「この時間に何をしなければならないのか」「次に何をしなければならないのか」ということを常に意識できるような事前指導を行い、現地での活動で実践させる。

④「事後の活動に活かせること」

修学旅行がそれだけで完結するのではなく、その活動全般（2年次の予備活動から事後のまとめまで）で得た力を以降の学校生活に活かせるように「テーマに沿って自分たちで考え実践していく力」を育てる。

上記のような方針をもとに3年次の実行委員会の指導や学級指導を行った。前年度までの数年間は「信州方面」への旅行ということで一定のシステムができあがっていたが、初めての「北海道修学旅行」ということで多くの事前指導に関しての変更を余儀なくされたが、逆に新鮮な気持ちで「自分たちの主体的な活動」としての修学旅行として位置づけできる部分が多く、生徒の意欲的な活動を促すことができた。「持ち物に関する学級・班討議」ではもっと個人的な意見が多く出されるのではないかと予想していたが、班やクラスの討議で「必要ない」という多数意見によって「持って行ってはいけない物」の中にも含まれるものも多くあり、「日常的な学校生活の延長線上の活動」というねらいにおいては成果が表れていた。また、「修学旅行」という関心の高い内容にもよるが「あるテーマについてグループの中で自分の意見を述べる・相手の意見を聞く」という「自己表現力の育成・主体的な活動への参加」というねらいに関しても一定の成果をあげることができた。実際の活動にあたっては初めて体験することが多くとまどうこともあったが、天候も良く、予定の活動が旅程通りに進行したこともあって、「5分前活動」を意識した、ほぼイメージ通りの活動となった。

4. 北海道修学旅行から

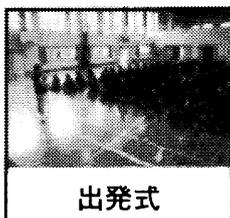
(1) 修学旅行の行程と生徒の様子

味わおう！ ふれあおう！
見つけよう！ 北の国から…

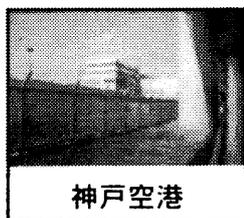
- ・アイヌの人たちの生活にふれ、その歴史と文化について学ぼう！
- ・北海道の豊かな自然の中でさまざまな体験をしよう！
- ・ルールを守り最高の思い出をつくろう！ -実行委員会作成の学年目標-

〈第1日〉 5月24日（水）晴れ

**出発式…神戸空港…新千歳空港…昼食…しらおい白老ポロトコタン(公演見学・体験学習)
…洞爺湖展望公園(トイレ休憩)…ニセコペンション(クラス分宿)**



出発式



神戸空港



空港ロビー

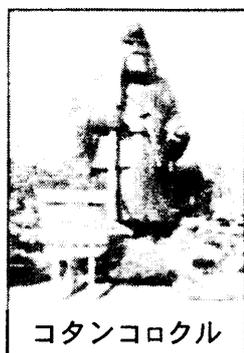


搭乗 B767

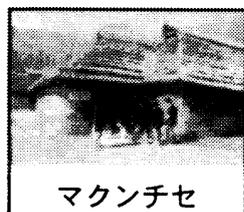
出発式を終え、一行はバスで神戸空港へ向かう。空港の規模のせいか修学旅行生の一団にとっても比較的混乱することなく搭乗手続きを済ませることができた。飛行機に乗ることが初めてという生徒も多く、「飛行機に乗ること」そのものもよい体験となった。快晴の眼下には小さくなった町並みがくっきりと見え、飛行機の上昇と共に期待感も高まっていった。



昼食風景



コタンコロクル



マクンチセ

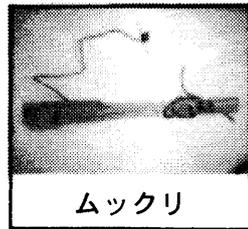


アイヌ古式舞踊

昼食は北海道ら一杯になったところというのはアイヌ語「ポロトコタン」＝「ポロ・ト・コタン」＝「大きい・湖の・集落」を表している。入村すぐに巨大なコタンコロクル（むらおさ）が出迎えてくれ、マクンチセ（奥の家）ではアイヌの暮らしや、ムックリ演奏、アイヌ古式舞踊（生徒や教師の参加も大うけ！）の説明や実演もあり盛り上がった。その後、「体験学習館」でそれぞれが選択した「ムックリ・刺繍・彫刻」の3種類の学習の1つを体験した。難しい工程もあったが、それぞれ講師の説明に耳を傾け、熱心に活動に取り組むことができていた。



体験学習館



ムックリ



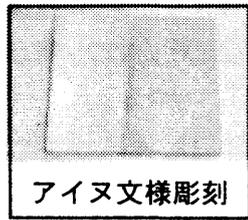
製作後の演奏



アイヌ文様刺繍



刺繍製作中

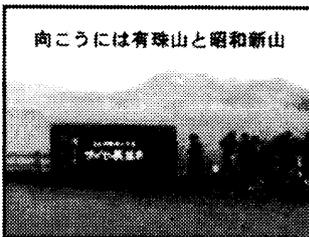


アイヌ文様彫刻



文様彫刻製作中

各体験を終え、一行は一路一日目の宿泊地である「ニセコペンション」に向かった。途中休憩地の「洞爺湖展望公園」では有珠山と昭和山が見え、肌寒さも手伝って「北海道に来ている」ことを体感。



向こうには有珠山と昭和山

ペンションでの挨拶を済ますと早速夕食。朝早くからの活動となった修学旅行一日目も、ようやくリラックスタイム。今日一日の出来事に話もはずむ。



いただきます

〈第2日〉 5月25日(木) 晴れ

午前中ペンション村を中心に種目別体験学習…噴き出し公園で昼食…午後ラフテイング体験…キロロマウンテンホテル宿泊

まだ雪の残る羊蹄山をバックにクラス写真を撮影。午前の部の選択種目別体験学習に出発！体験種目は「薫製作り・そば打ち・ケーキ作り・レザークラフト作り・イチゴ収穫・酪農体験・ドリームキャッチャー作り・パン&バター作り」の全10種目。限られた時間での活動であったが、逆に集中度もUP！熱心に作業に取り組んでいた。活動後はできあがった作品をおみやげにしたり、その場でできたてを食べたりと、真剣な中にもゆったりとした時間が流れた。普段の学習以外での真剣な表情が印象的だった。



雪を残す羊蹄山



ケーキ作り



午前の体験終了後は「噴き出し公園」で昼食タイム。羊蹄山からの「おいしい水」が絶え間なく湧き出る名水の里でのんびりと食事をとり、午後のラフティングにそなえる。天気

が良いのがなによりの「おかず」となった。



いよいよラフティング！

午後はいよいよラフティング体験！初めての体験で不安も一杯だったと思うが、一緒にボートに乗るのが、みんなクラスや学年の仲間なので心強い。着替えを済ませていざ出発！



6月近くにはなっていたが、さすがに北海道。雪融けの水は冷たく、流れも速い！最初はこわごわボートに乗り、悲鳴をあげて

いた生徒も到着した時にはすっかり余裕の表情になっていた。水の冷たさに「足の感覚がない…」と凍えていた生徒たちも、その表情には「やり遂げた」という満足感・達成感があふれていた。

着替えを済ませて2日目の宿泊地となる「キロロマウンテンホテル」へと向かう。冷めた体を温めた後は夕食。一日の体験でみんなお腹も



ペコペコ。ビュッフェスタイルの夕食ということで各自好きな物を取ってゆったりと（何度も急ぎ足で往復している生徒もいたが…）過ごしていた。



夕食後は実行委員会が中心となって「学年レク」が行われ、盛り上がりの中でそれぞれが一日の疲れをほぐしていた。

〈第3日〉5月26日（金）晴れ

午前中小樽にて自主研修(昼食は小樽市内で各自)…午後「北海道開拓の村」見学…新千歳空港…伊丹空港…学校

修学旅行最終日。朝食をすませバスは一路小樽市内へと向かう。小樽では「ガラス館」や「オルゴール館」をはじめ、多くの店が並び、おみやげを選ぶ目も真剣。昼食は各自で自由にとるので、おいしいものを少しずつ食べ歩く生徒もいた。

お腹も一杯、おみやげも一杯となって小樽をあとにし、最後の見学地「北海道開拓の村」



へと向かう。「開拓の村」は明治・大正期に建築された北海道の建造物を広大な敷地に再現したもの。開拓当時の様子がしのばれた。



「開拓の村」の見学後はいよいよ新千歳空港へ。2泊3日の修学旅行も残すところあとわずかとなり少々名残惜しさも…。新千歳空港に到着し、搭乗手続きを済ますとやっとひと息。飛行機は夕暮れの空を一路ふるさとへ。数多くの体験と、触れ合い、そしてたくさんの思い出を胸に全員が無事に帰宅。絶好の天気にも恵まれ、事故もなく充実した3日間となった。

(2) 生徒感想文

北の大地へ!

(男子)

待ちに待った修学旅行の日になった。バスに乗って、神戸空港に行くまでは、まだ修学旅行という実感もあまりなく、朝も早かったのもあってテンションも上がってこなかった。けれど、空港について飛行機に乗るころには、楽しみも増してきて、やっと始まったな! って感じがした。飛行機に乗るのは初めてではなかったけれど、さすがに北海道に行くのは初だったので、どんな所だろうか? と、期待もたくさん持ちつつ、北海道に向かった。飛行機はやっぱりあっという間に、北の大地まで連れていってくれた。新千歳空港を出たときに、北海道らしい冷たい空気を感じたし、バスに乗っての移動の時に一番、北海道に来たんだ! という気持ちが強くなった。それは、畑や農場に森林など、とても緑豊かな土地を見てだった。北海道の広さには本当にビックリした。前に埼玉に行ったときにも畑がいっぱいあるなあと感じたのだけど、北海道は、そんなものまったく比べものにならないくらいだった。畑という普段、八幡でも何気なく見ているものに見とれてしまっている自分にもびっくりした。そのどこまでも広い畑の景色が僕にとっては北海道でも一番の景色だったので、カメラでその景色をおさめられなかったのはすごく残念だった。けれどその景色は今でも僕の頭に残っていて、この素晴らしい景色だけは絶対に忘れないぞと思った。最初にアイヌの歴史について学ぶため、ポロトコタンへ行った。アイヌの人はおもしろく、わかりやすく、その歴史について語ってくれ、楽しく過ごせた。ムックリは、とってもシンプルな楽器で、音を出すのはなかなか難しかったけれど、いい体験になったと思う。

ペンションは、オーナーさんもとてもやさしく、すごくきれいなところだったし、暖かみがあった。もうずっとここにいてもいいくらいの居心地のいいペンションだった。

2日目はラフティングがあった。体験の中で最も楽しみにしていたのがこのラフティングだった。さすがに川の水は冷たかったけれど、そんなこと気にならないくらいエキサイトした。インストラクターの人もおもしろくて、楽しさ2倍だった。終わったあとは、もう全身ひえひえで、大変だったけれど、機会があれば絶対もう一回やりたいと思った。っていうかインストラクターの人とも約束しちゃった!

キロロに着いて、まず風呂でゆっくりしたかったけれど、学年レクの準備でまったく自由時間がなかったし、風呂も大急ぎ状態になってしまった。学年レクは実行委員としての一番の働きどころでもあったけれど、みんなもなかなか乗ってくれず、すごく苦労したし、無視して他のことをしてる人らなんかはかなり腹が立った。途中、嫌にもなったけど、何とか最後までやり切れたことはよかった。

最後の3日目、小樽で友達と自由にすごした。お土産もたくさん買って、楽しんだ開拓村も見学し、とうとう修学旅行も終わりに近づいてきた。まだ帰りたくなかったので、天気が悪くなって飛行機が飛ばなくなればとも思ったけど、そんなことは実現せず、まっすぐ家に向かい、楽しかった修学旅行も終わってしまった。けれど、ほんとに楽しかったし、みんなともさらに仲良くなれたし、こんなにいい修学旅行は他になかったと思う。忘れられない最高の思い出となった…。

修学旅行の思い出

(女子)

6月24日から3日間、私は初めて北海道に行って来ました。北海道は自然がたくさんあってキレイな所だと聞いていたので、すごく楽しみでした。

空港について、まず飛行機のチケットを先生からもらいました。空港は出来たばかりで、いろいろな設備がありました。一番緊張したのは身体検査の時でした。別に何も持ってなかったけど、「ピーッ」と鳴りそうでドキドキしながら、ドームみたいな所をくぐりました。音は鳴らなかったけど、一回鳴らしてみたいなあと思いました。飛行機を待っているときは写真を撮ってはダメだというのが、残念だなあと思いました。

飛行機に乗り、北海道に着いた時「ホンマに北海道に来れたのかなあ」と思いました。2時間ぐらいで来たのであまり実感がありませんでした。だけど、バスを待っている時、京都では暑いくらいなのに、冷たい風が吹いていて、やっぱり北海道に来たんだなあと思いました。

バスに乗って10分ぐらいしたら、「おいしそう」みたいな名前のところで、昼飯を食べました。ご飯とラーメンが出て、すごくおいしそうだったけど飛行機の中でお菓子とかを食べていたので、少ししか食べられませんでした。ご飯はおいしかったので、もっと食べとけば良かったなあと思いました。

その後、ポロトコタンで話を聞いて、ペンションに着きました。ペンションはピンク色の外国の家みたいで、すごくかわいかったです。ペンションのオーナーの人はおもしろそうな感じの人でした。私の部屋は、215号室でした。他の部屋はすべて洋室で「めっちゃかわいいなあ」とか話しながら自分の部屋に行ったらそこだけ和室で少しショックでした。でも布団をひいたり寝ころがったりできたので、洋室より和室で良かったなあと思いました。少しの間、部屋でくつろいでいると、夕ご飯になりました。夕ご飯はレストランみたいなかわいい感じで、すごくおいしかったです。全部食べきれないで少し残してしまって、もったいないなあと思ったけど、やっぱり食べられないので残しました。

この日は12時ぐらいに寝ました。夜中に一度みんな目が覚めたので、ちょっと外に出ようかなあと思ってドアを開けたら、先生がいて出られなかった。なかなか寝れなかったので、窓を開けると、とてもたくさんの数の星が出ていました。まるでプラネタリウムのような感じでした。久しぶりに空いっぱい星を見て感動していたら一つの光が流れました。初めて流れ星を見ました。「すごーい！」とみんなで言いながら疲れて寝てしまいました。2日目。今日は酪農体験です。バスで約30分ほど乗って牧場に着きました。牧場では牛がたくさんいて、私は牛にエサやりと、牛を洗いました。メスの牛は牛乳が出来るので、数十年生きられるけど、オスは1～2年ぐらいで肉にされると聞き、びっくりしました。牧場では普段出来ない体験が出来てよかったです。

次にラフティングをしました。最初は「嫌やなあ」と思っていたけど、やってみるととてもおもしろかったです。水をかぶったり、落ちたりして、みんなで楽しめたと思います。ホテルに泊まるので行ってみると、とてもきれいなホテルでした。ラフティングをして疲れていたの、先にお風呂にはいることになったけど、私は実委員だったので、時間が無く、すぐに学年レクをしました。学年レクは少しざわついたりしていたけど、けっこう頑張れたと思います。

3日目。一番楽しみだった自由時間です。友達といろいろな店を回っていると、馬に乗っている人や、他の学校の人もたくさんいました。お土産を買ったりしているとあっという間に時間が過ぎてしまいました。

最後に開拓村に行きました。昔の家や学校が見れて、けっこうおもしろかったです。

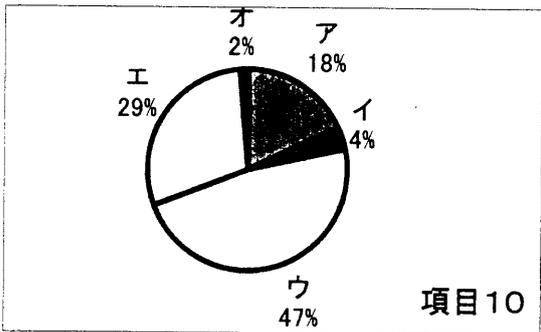
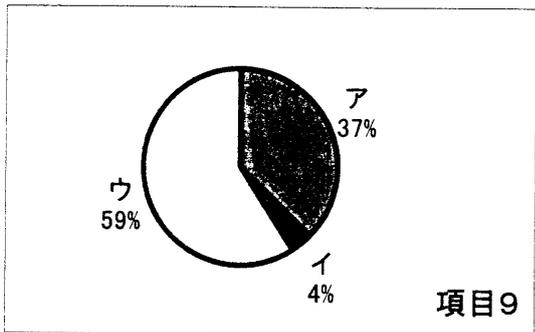
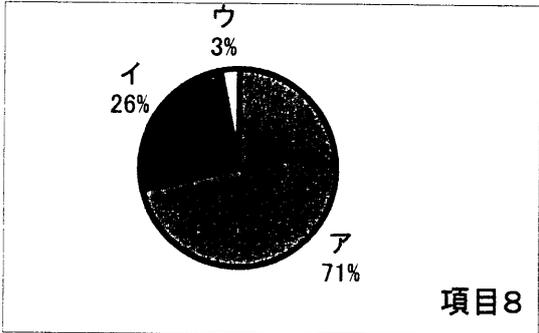
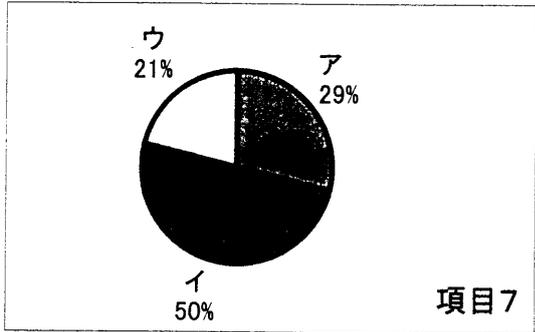
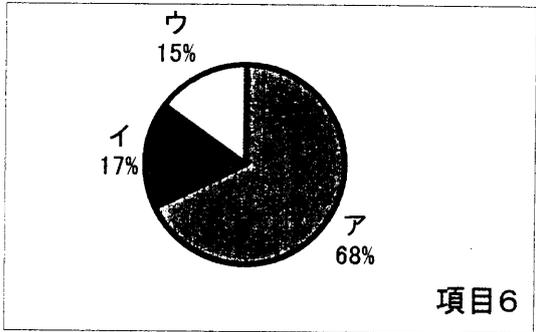
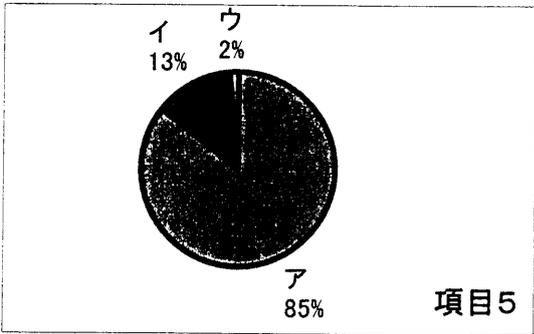
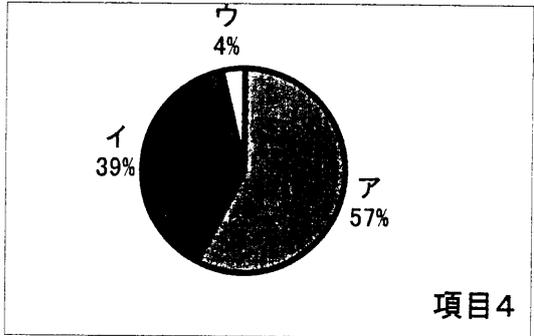
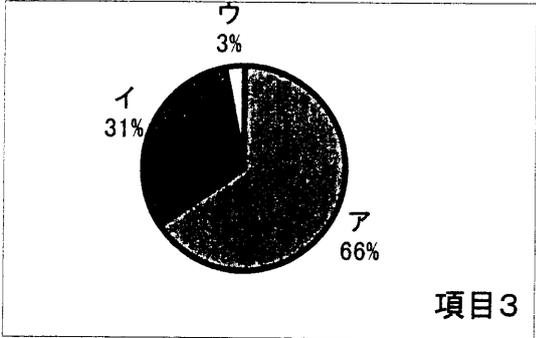
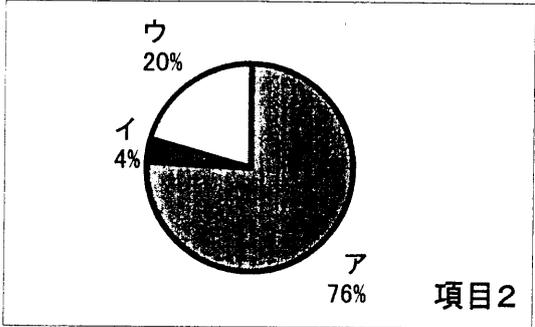
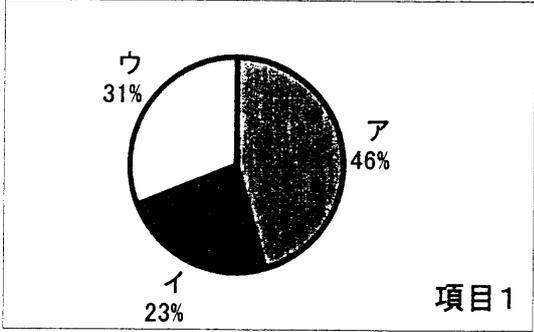
飛行機に乗り、とうとう修学旅行が終わってしまいました。すごく楽しくて3日間というのはとても短いなあと思いました。バスを降り、家に帰るといつもの家に着き「ああ、もっと北海道にいたかったなあ」と思ったけど、すぐに寝てしまいました。

私はこの3日間でいろいろ勉強になったと思うし、とても楽しいことがたくさんあり、本当に充実していたと思います。

(3) 修学旅行に関するアンケートと補足 (全34項目より抜粋)

- 項目1 飛行機に乗ったのは何回目ですか？
(ア) 今回が初めて (イ) 2回目 (ウ) 3回以上
(補足) 回答(ア)の中で「初めてで不安な気持ちもあったが、それほど気にならなかった」と感じた生徒は86%あり、飛行機の利用そのものについての不安はほとんどなかったと考えられる。むしろ、搭乗手続きや機内マナーについての事前指導がもう少し必要であった。
- 項目2 白老ポロトコタンでの「アイヌ民族古式舞踏(ムックリ・ピリカの唄など)」の公演はどうでしたか？
(ア) 生徒や先生が参加する部分もあり、楽しく見ることができた。
(イ) もう少し事前に学習してアイヌの文化などを理解しておけばよかった。
(ウ) あまり興味がわかかなかった。
- 項目3 体験学習館で行った「アイヌ文化体験学習(ムックリ製作・刺繍・彫刻)」はどうでしたか？
(ア) しっかり取り組めたと思う。
(イ) しっかり取り組めたが、もう少し時間があればよかったと思う。
(ウ) しっかりとは取り組めなかった。
(補足) 体験そのものに関する取組姿勢は概ね意欲的であったが「時間が足りなかった」と感じた生徒が31%あった。あと20～30分程度の余裕があればほぼ全員がやりきれたのではないと思われる。
- 項目4 2日目の午前の個人種目別体験(薫製作り・レザークラフト・そば打ち・ケーキ作り・イチゴ収穫・酪農・ドリームキャッチャー作り・パン&バター作り・シルバーアクセサリー作り・アイス&ジャム作り)はどうでしたか？
(ア) とても楽しく活動できた。(イ) まあまあ楽しく活動できた。
(ウ) あまり楽しく活動できなかった。
(補足) 「酪農体験」の生徒で(ウ)を回答した生徒が多かった。「乳搾りなどができる」と考えていたが、草を与えることが主で多少期待はずれとなった。また、「その他にやってみたかった体験は」という質問に対しては「フィッシング・パラグライダー・ゴルフ」などの回答があり、特に男子ではよりアクティブな体験を望む傾向も見られた。
- 項目5 2日目午後のラフティング体験はどうでしたか？
(ア) とても楽しく活動できた。(イ) まあまあ楽しく活動できた。
(ウ) あまり楽しく活動できなかった。
(補足) 事前の確認で「濡れることは比較的少ない」と言われていたが、ほぼ全員中まで濡れてしまったり、体験後の冷え切った体を温めるためのシャワーや温泉などの施設もなく体調管理が大変だった。体験そのものが充実したものであったことに比較して付属の施設が十分ではなかった。

- 項目 6 3日目の午前「小樽での自主研修」はどうでしたか？
(ア) おみやげも買えたり、いろいろな場所も楽しく回ることができた。
(イ) ほとんどおみやげを買うだけで終わってしまった。
(ウ) うまく時間を使えず、思ったように散策できなかった。
- 項目 7 2年生の時に北海道に関する事前学習を行いました。その学習の成果はあったと思いますか？
(ア) 事前学習をしていたので、より理解が深まった。
(イ) 事前学習の時は理解できていたが、忘れていたことも多かった。
(ウ) 事前学習の内容をあまり覚えていなかった。
(補足) 2年での事前学習から時間が経っていたことと、3年の学年当初で、基礎学習に十分時間がさけなかったことで(イ)(ウ)の回答が多かった。2年での学習をさらに深めるための時間の確保がより効果的な活動につながったのではないかと考える。
- 項目 8 初めての北海道への修学旅行となりましたが、修学旅行全般を通して「北海道修学旅行」はどうでしたか？
(ア) 大変よかった。(イ) まあまあよかった。(ウ) あまりよくなかった。
(補足) 3日間天候に恵まれたこともあって、北海道の修学旅行全般に対しての印象は概ね良好であった。また「北海道では他にどんなところに行ってみたいか」という質問に対しては「札幌・函館・知床」といったような場所をあげた生徒が多かった。
- 項目 9 もし、もう一度行くとしたら、どの方面がいいですか？
(ア) 北海道 (イ) 信州 (ウ) その他(関東・東北・北陸・中国・四国・九州・沖縄)
(補足) 回答(ウ)の内訳としては沖縄の75%が最も高く、ついで関東の12%、その他はいずれも数%にとどまり、修学旅行の目的地としては北海道と沖縄が人気を二分した結果となった。
- 項目 10 そこでは主にどんな活動がしたいですか？
(ア) 見学型学習(名所、旧跡などを訪れる)
(イ) 体験型学習(全員が同じ体験をする)
(ウ) 体験型学習(全員が同じ体験をする+個人選択体験のセット)
(エ) 体験型学習(全て個人選択体験)
(オ) 平和学習型体験学習
(補足) 実際の活動においては約80%の生徒が「体験型」の活動を望んでおり、「個人選択型」で「自分の興味や関心(活動的な内容・創作的な内容)に応じた体験をしたい」という傾向が強かった。



(4) 北海道修学旅行の教師の感想・意見

① 日程について

- ・特に問題はなく、他の行事の関係もあるのでこの時期でよい。
- ・空港と時間が希望通りできない現状がある。

※日程は、現状がベストであり、飛行機利用の空港・時間は学校・旅行社ではどうにもならない。

② 北海道方面について

- ・雄大な北海道は素晴らしい。
- ・天気によって修学旅行の良い・悪いが大きく左右される。
- ・バス→飛行機→バスの移動は疲れが大きい。

※北海道の修学旅行の意義は大きい。天候の問題は、どこに修学旅行に行っても同じである。飛行機の旅行は、初めて飛行機に乗る生徒も多くメリットも大きい。

③ ポロトコタンについて

- ・アイヌのショーと体験はとても良かった。
- ・時間がなくてポロトコタン内の見学ができなくて残念であった。

※ポロトコタンでの時間は、飛行機の出発時間とペンション着の関係からしかたがない。

④ ペンションについて

- ・ペンションによって条件が多少異なった。
- ・男女の部屋割が分けにくかった。
- ・食事の量が少なかった。

※ペンションの条件の異なるのは、同じ作り・設備のペンションはないのでしかたがない。食事は、ごはんは食べたいだけ食べさせてもらったのでよかった。

⑤ ニセコの体験学習について

- ・体験の種類が豊富で自分の希望で選択できた。
- ・時間的にも適度で楽しそうに体験し充実していた。

※ニセコの体験学習は多くの種類から希望で選べ、自分で作った物を食べたり、お土産になるなどとてもよかった。

⑥ ラフティングについて

- ・濡れる前提で着替えの準備が必要である。
- ・風呂があったらベストである。

※長野は長野！北海道は北海道！同じラフティングでも違いがあるとを理解する必要がある。

⑦キロロホテルについて

- ・バイキングのシステムが良かった。
- ・部屋の風呂の構造が多少異なった。
- ・内線電話（いたずら）の問題が生じた。
- ・男女の部屋を1F・2Fに分けることができ指導もやりやすかった。

※部屋の構造の異なり・内線電話などの問題はあるが、バイキングであったこと、ホテルのすばらしさなどメリットの方が大きい。

⑧小樽自由行動について

- ・お土産を買う場所として最適であった。
- ・時間も範囲も最適であった。

※雰囲気・行動範囲・時間ともとてもよかった。

⑨北海道開拓村について

- ・北海道の歴史・文化を実際に見ることができて良かった。
- ・時間的には短かった。

※アイヌの歴史だけではなく、北海道の歴史を学ぶには大切な時間であった。見学時間は、小樽自由行動との兼ね合いである。

⑩近畿ツーリストについて

- ・事前の対応も当日の対応もよく頑張ってもらいとても良かった。

※意欲と誠意を持って、1年時からよく頑張ってもらった。当日の添乗員のメンバーもすべてよかった。

⑪修学旅行の取組について

<教師側の体制と計画について>

- ・2年時から早目に取り組みができて良かった。
- ・学年教師全体で仕事の分担ができたら良かった。

※学校の伝統的な体制と計画があれば、様々な考え方はある程度統一されるのではないかと思う。

<生徒側の体制と計画について>

- ・2年時からの引き続きで良かった。
- ・旅行委員の生徒は、長い期間良く頑張った。
- ・旅行委員・学級委員以外の生徒の実際の仕事あまりなかった。

※教師主導にならない為にも、しっかりした体制と計画が必要である。

⑫その他

- ・しおり学習の時間がもう1～2時間あった方が良かった。

※総合・学活・道德の多くの時間を修学旅行に費やした。時間には限りがあり、学年スタートの時期で修学旅行だけに時間を費やすことはできないので、限られた時間で工夫する必要がある。

5. 成果と課題

<成果>

- ①教育課程を見直し、3年間通した行事の精選と体系化ができ、総合学習との整合性を重視したことで、学習に対しての興味・関心・意欲が高まり、知識・理解を深化させ発展させることができた。
- ②総合学習で学んだことが、実際に見ることで、聞くことで、体験をすることで、現実のものとして確認することができた。
- ③行程の活動のほとんどを体験学習を中心に言い、各自が第一希望の体験学習ができたこともあり、身をもって北海道を満喫し充実したものになったように感じる。また、初めての土地であったことやクラスを超えての希望での小集団であったことで、男女関係なく、すぐに溶け込んで協力し合う状態であった。
- ④すべての行程において事前学習を行ったので、全体を通して興味・関心・意欲を持った状態であったように感じる。また、時間的にも計画通りにスムーズに終了した。
- ⑤飛行機を利用したことで、移動にメリハリができて良かった。また、飛行機に初めて乗る生徒が多く、離陸では歓声、揺れでは悲鳴、着陸では拍手喝采という状況で大いに盛り上がった。
- ⑥1日目はペンションでクラス毎に分宿し、クラスだけで過ごすことで、クラスとしての思い出・クラスのまとまりができた。2日目はホテル泊し、学年レクリエーションをするなどして、学年全体としての思い出・学年のまとまりができた。
- ⑦2年生の後期より、生徒実行委員会を組織して、生徒中心に進めてきたことで、生徒の実行委員としての自覚が確立され、他の生徒においても自分たちの為に中心となって頑張ってくれているという協力姿勢ができた。
- ⑧2年生で気のゆるみから生活が乱れ気味な時期であったが、「自分たちの修学旅行は自分たちで成功させよう！」と秋の校外学習を修学旅行の一環と位置づけ取組を行った。また、「自分たちの生活環境は自分たちで作ろう！」と発展させて、学級委員会の取組も活発化させることで、先生対生徒（怒る対怒られる）という関係になりかけていた状態が、「自分たちのことは自分たちで！」という雰囲気ができあがり、非常に落ち着いた状態になった。
- ⑨実際の修学旅行では、『ルール・マナーを守る。時間を守る。注意を守る。』などの意識が高く、全行程において決められた時間に遅刻する生徒が一人もいないというような状態であった。
- ⑩その後、修学旅行を通して身につけた力を生かし、合唱コンクール・体育大会など学校のリーダー学年として活躍した。

<課題>

- ①天候に恵まれた修学旅行であったが、もし、雨等の悪天候であった場合を考えると、行程の半分以上に支障が生じたと考えられ、雨天時の十分な対策が必要である。
- ②2泊3日の修学旅行としては、活動を欲張り過ぎて、時間で区切る状態であった為、生徒の感想文に、いくつもの活動に対して、「もう少しやりたかった！」という感想が多くあった。活動の多様化と時間の使い方の検討が必要である。
- ③ラフティングを下見が終了して計画したことから、業者と打ち合わせができていなかった為、指導した内容が間違ったり、ぶっつけ本番で対応したことから戸惑うことも多かった。長野と北海道のラフティングは違っており、活動すべての下見が必要である。
- ④飛行機の利用で、時間・空港を希望しても、はっきり分かるまで時間がかかり、希望した時間・空港にはならないという難点があり、今後飛行機利用の増加への対応が課題となる。

参 考 資 料

近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ

近畿地区中学校修学旅行研究大会のあゆみ

H18.6.9作成

(回数の○印は全国研究大会を兼ねる)

	年月/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
①	昭和 59. 7. 6 大阪市教育青年センター	<p>主題 「今後の修学旅行・自然教室・野外活動を考える」</p> <p>発表・山城 真 (兵庫県西宮市立塩瀬中学校教諭)</p> <p>「日常の教育活動を生かした本校の校外学習」</p> <p>講演 高橋哲夫 (文部省初等中等教育局教科調査官)</p> <p>「学校教育の今日的課題と修学旅行・自然教室」</p>	<p>主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 文部省、滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県各教育委員会</p> <p>協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会</p>
②	昭和 61. 11. 14 兵庫県私学会館	<p>主題 「集団宿泊指導の積み重ねによる修学旅行」</p> <p>発表・坂東鐵二 (兵庫県西宮市立甲陵中学校教諭)</p> <p>「1年生からの校外学習の積み重ねによる修学旅行」</p> <p>・雨宮 章 (京都府長岡京市立長岡第四中学校教諭)</p> <p>「生徒の自主的・実践的態度を育てる修学旅行・野外活動」</p> <p>講演 高橋哲夫 (文部省初等中等教育局教科調査官)</p> <p>「特別活動の充実と今後の修学旅行のあり方」</p>	<p>主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 文部省・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県各教育委員会</p> <p>協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会</p>
3	平成 1. 1. 20 京都市アバンティール・ホール	<p>主題 「生徒の自主性を生かす修学旅行」</p> <p>発表・松宮 功 (京都府長岡京市立長岡第三中学校教諭)</p> <p>「生徒が自主的、意欲的にとりくむ修学旅行」</p> <p>ー自分たちで考え、守るルール アンド マナーー</p> <p>・栗原重和 (滋賀県高月町立高月中学校教諭)</p> <p>「生徒の自発性を促す修学旅行」</p> <p>ー学級活動、班を取り入れてー</p> <p>講演 北條直樹 (全修協大阪事務局修学旅行部長)</p> <p>「修学旅行の基本問題と今日的課題」</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 京都府教育委員会 京都市教育委員会 大阪府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会</p>
④	平成 1. 12. 1 大阪府教育会館	<p>主題 「特色のある修学旅行生徒の自主性を生かして」</p> <p>発表・荻野南子 (兵庫県西宮市立深津中学校教諭)</p> <p>「生徒たちの創意工夫を生かした修学旅行」</p> <p>ーリーダーの育成と班別由行動ー</p> <p>・林 一幸 (大阪府富田林市立第三中学校教諭)</p> <p>「集団作りの中の修学旅行。自主性の創造をめざして」</p> <p>講演 高橋哲夫 (文部省初等中等教育局教科調査官)</p> <p>「個性を生かす教育と修学旅行」</p>	<p>主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 文部省、大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会 大阪府教育委員会</p> <p>協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会</p>

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
5	平成 2. 12. 3 奈良県 春日野荘	<p>主題 「生徒の自ら学ぶ意欲を高め、創意を生かす修学旅行」</p> <p>発表・東 康彦（和歌山県和歌山市立 伏虎中学校教諭） 「創意ある班別自主活動を取り入れた旅行」 － 都内散策活動を通して－ ・南 昌克（奈良県大和高田市立 高田中学校教諭） 「自ら学び行動する生徒の育成をめざす修学旅行」 － 生徒の主体的活動を通して－</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>
6	平成 3. 11. 12 滋賀県 鳩の浜荘	<p>主題 「これからの修学旅行の自主活動と教師の関わり」</p> <p>発表・地村 卓（滋賀県大津市立 日吉中学校教諭） 「3年間を通した主体性を考える修学旅行」 ・大木義文（京都府長岡京市立 長岡第三中学校教諭） 「修学旅行を成功させるための学年 代議員を中心とした取りみ」</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>
⑦	平成 4. 11. 27 神戸市総合教育センター	<p>主題 「視野を広げ、心豊かな人間性を育成する修学旅行」</p> <p>発表・脇坂健一郎（大阪府美原町立 美原西中学校教諭） 「よく食べ、よく学び、よく遊ぼう」 ・平位 隆明（兵庫県姫路市立 東光中学校教諭） 「心の豊かさを求める修学旅行」</p> <p>講演 鹿嶋研之助 （文部省初等中等教育局教科調査官） 「特別活動における修学旅行の意義」</p>	<p>主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 文部省、兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 和歌山県教育委員会 神戸市教育委員会</p> <p>協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会</p>
8	平成 5. 11. 19 和歌山県 紀の国会館	<p>主題 「視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、心豊かな人間性を育成する修学旅行」</p> <p>発表・藤田辰男（奈良県三郷町立 三郷中学校教諭） 「自ら学び・主体的に創造する修学旅行」 － 一日班別自主活動を通して－ ・天野 久（和歌山県かつらぎ町立 妙寺中学校教諭） 「班別活動を生かした仲間づくり」 － 自主自立をめざして－</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
9	平成 7. 1. 20 京 都 府 長 岡 京 市 中 央 公 民 館	<p>主題「視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、心豊かな人間性を育成する修学旅行」</p> <p>発表・草野圭夫（滋賀県大津市立 南郷中学校教諭） 「生徒一人ひとりが体験活動を通して、喜びと感動を実感できる修学旅行をめざして」 ・小島恒夫（京都府亀岡市立 南桑中学校教諭） 「最上級生としての自覚を促す修学旅行の取り組み」</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 長岡京市教育委員会 向日市教育委員会 大山崎町教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>
⑩	平成 7. 11. 28 大 阪 府 教 育 会 館	<p>主題「体験を重視し、自ら学ぶ意欲を高め、心に残る修学旅行を求めて」</p> <p>発表・中山 宏、伝刀永一 （大阪府河内長野市立 長野中学校教諭） 「生徒の主体性を重んじた修学旅行の創造」 ・江口直宏（兵庫県川西市立 東谷中学校教諭） 「修学旅行を通して自治・学習・友情を高める」</p> <p>講演 鹿嶋研之助（文部省初等中等教育局 教科調査官） 「修学旅行における体験学習」</p>	<p>主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 文部省、都道府県教育長協議会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪市教育委員会</p> <p>協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会</p>
11	平成 8. 11. 22 奈 良 県 春 日 野 荘	<p>主題「体験を重視し、自ら学ぶ意欲を高め、心に残る修学旅行を求めて」</p> <p>発表・岩崎 篤（和歌山県美山村立 愛徳中学校長） 「学ぶ喜びを求めて」 ・佐藤政幸（奈良県大和高田市立 片塩中学校教諭） 「大規模校における修学旅行実施に伴う班別活動の導入について」</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>
12	平成 9. 12. 5 滋 賀 県 大 津 市 生 涯 学 習 セ ン タ ー	<p>主題「体験を重視し、生きる力を育成する修学旅行」</p> <p>発表・吉川祥子 （京都府長岡京市立 長岡第三中学校教諭） 「個に応じた体験学習を取り入れた修学旅行」 ・浦谷政行（滋賀県大津市立 栗津中学校教諭） 「ぐるっと200-自ら計画する修学旅行を求めて」</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
⑬	平成 10. 11. 20 兵 庫 県 西 宮 市 フレンテホール	<p>主題 「体験を重視し、生きる力を育成する 修学旅行」</p> <p>発表・寺田孝志（大阪府堺市立 浜寺南中学校教諭） 「生徒の自主性を生かす修学旅行」 －実行委員会活動を中心に－ ・鶴山実紀子（兵庫県西宮市立 山口中学校教諭） 「ウォークラリーから始めた修学旅 行班別行動の試み」</p> <p>講演 成田国英 東京家政学院大学教授 （元文部省教科調査官） 「教育課程の改訂と修学旅行」</p>	<p>主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 文部省 都道府県教育長協議会 兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 西宮市教育委員会 全国中学校長会</p> <p>協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会</p>
14	平成 11. 11. 22 和 歌 山 県 アバローム 紀 の 国	<p>主題 「体験を重視し、生きる力を育成する 修学旅行」</p> <p>発表・山本 剛（奈良県五條市立 五條中学校教諭） 「生徒の自主性を育む修学旅行の在 り方」 －奈良県における修学旅行と課題－ ・松本茂和（和歌山県田辺市立 上秋津中学校教諭） 「生徒の主体性を生かす修学旅行」 －実行委員会活動を中心に－</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>
15	平成 12. 12. 14 京 都 府 長岡京市立 中央公民館 市民ホール	<p>主題 「体験を重視し、生きる力を育成する 修学旅行」</p> <p>発表・清水貴博（滋賀県彦根市立 彦根中学校教諭） 「生きる力につなぐ修学旅行の取り 組み」 ・岩佐好正（京都府伊根町立 本庄中学校教諭） 「地元でできない体験から学ぶ修学 旅行を目指して」</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 長岡京市教育委員会 日向市教育委員会 大山崎町教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>
⑯	平成 13. 11. 22 大 阪 府 たかつ ガーデン	<p>主題 「体験的学習を通して生きる力を育成 する修学旅行」</p> <p>発表・中村勝成 田中 繁 （大阪府松原市立 松原第二中学校教諭） 「総合的な学習にリンクさせた修学 旅行」 ・岡田みどり（兵庫県伊丹市立 東中学校教諭） 「自立をめざす三年間をみすえた 学校行事づくり」</p> <p>講演 森嶋昭伸（文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官） 「学校教育の転換と修学旅行」</p>	<p>主催 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 文部科学省 全日本中学校長会 都道府県教育長協議会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 京都府教育委員会</p> <p>協賛 近畿地区公立中学校修学旅行委員会</p>

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
17	平成 14. 11. 15 奈良県 春日野荘	<p>主題「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」</p> <p>発表・中村恭輔・中嶋昭夫 (奈良県奈良市立 春日中学校教諭) 「学び、育てよう” 沖縄のこころ” ー 総合的な学習を通してー ・二本松芳彦 (和歌山県日高郡 南部川村立清川中学校教諭) 「(平和・交流・自然) 体験旅行」</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山県教育委員会 奈良市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>
18	平成 15. 11. 14 滋賀県 大津市 生涯学習 センター	<p>主題「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」</p> <p>発表・小島照代 (京都府福知山市立 南陵中学校教諭) 「九州への修学旅行」 ー 姉妹都市、島原との交流を通してー ・橘 香洋 (滋賀県守山市立守山北中学校 教諭) 「世界自然遺産の島・屋久島への旅」 ー生徒が育つ修学旅行ー</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山県教育委員会 大津市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>
19	平成 16. 11. 18 兵庫県 西宮市 プレラ にしのみや	<p>主題「修学旅行における『学び』の創造」</p> <p>発表・安田昭彦 (大阪府美原町立美原中学校教諭) 「沖縄への修学旅行」 ー平和学習を基盤とした 修学旅行の取り組みー ・志水和司 (兵庫県安富町立安富中学校教諭) 「北海道への修学旅行」 ー総合的な学習(福祉)を深めるー</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会 西宮市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>

	年月日/会場	主題・発表・講演	主催・後援・協賛
20	平成 17・11・18 和歌山県 和歌山市 「和歌山 ビッグ愛」	<p>主題「修学旅行における『学び』の創造」</p> <p>発表・岸田 哲哉教諭 坂本 章子教諭 (奈良県桜井市立桜井東中学校教諭) 「関東への修学旅行」 —総合的な学習（進路・環境・歴史） を深める—</p> <p>・野田 明教諭 (和歌山県みなべ町立上南部中学校) 「北海道への修学旅行」 —地域の特産物・南高梅のPR活動の 取り組み—</p>	<p>主催 近畿地区公立中学校修学旅行委員会 財団法人 全国修学旅行研究協会</p> <p>後援 和歌山県教育委員会 奈良県教育委員会 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 和歌山市教育委員会</p> <p>協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校 修学旅行連合委員会</p>